

令和6年度（第63回）農林水産祭
第38回「優秀農林水産業者に係るシンポジウム」

【88のアイデア実現を目指して、「え〜ひだ」を創るカンパニー】

―業績発表及びディスカッションの内容―

開催日時	令和7年2月19日（水）13時00分～15時30分
場所	島根県安来市 安来市総合文化ホール アルテピア 小ホール
主催	農林水産省・公益財団法人 日本農林漁業振興会



令和7年4月

公益財団法人 日本農林漁業振興会

発行にあたって

農林水産祭事業は、農林水産祭参加表彰行事において農林水産大臣賞を受賞された方の中から特に優秀な農林水産業者を選び、その業績を顕彰し、業績内容について広く普及を図ることを目的の一つとしています。

このシンポジウムは、農林水産祭事業の一環として、去る令和7年2月19日（水）島根県安来市の安来市総合文化ホールにおいて『88のアイデア実現を目指して、「え〜ひだ」を創るカンパニー』をテーマに、平成6年度農林水産祭むらづくり部門の天
皇杯受賞者である島根県安来市の「えーひだカンパニー株式会社」の業績を取り上げて、140名を超える皆様の参加の下、開催しました。

（オンラインでの配信も併せて行い約80名の方にご視聴頂きました。）

本書は、「優秀農林水産業者に係るシンポジウム」の業績発表、意見交換（ディスカッション）等の内容を一冊に取りまとめたものであり、これらの内容が普及し活用されて、今後の我が国農林水産業の振興発展に寄与することを願うものです。

最後に、今回開催にあたり、多大なるご支援とご協力をいただきました関係各位に対し、深甚なる謝意を表する次第です。

令和7年4月

公益財団法人 日本農林漁業振興会

令和6年度（第63回）農林水産祭
（第38回）「優秀農林水産業者に係るシンポジウム」

目 次

シンポジウムスケジュール・・・・・・・・・・	1
シンポジウム出席者・・・・・・・・・・	2
受賞者の業績概要・・・・・・・・・・	3
シンポジウムの記録・・・・・・・・・・	5

令和6年度（第63回）農林水産祭

「優秀農林水産業者に係るシンポジウム」（トップリーダー発表会）

【88のアイデア実現を目指して、「え〜ひだ」を創るカンパニー】

《スケジュール》

13:00～15:30

（敬称略）

- | | | | |
|---|--------|--|------------------------|
| 1 | 開 | 会（13:00） | |
| | | 公益財団法人 日本農林漁業振興会 常務理事 | 小栗 邦夫 |
| 2 | 挨拶 | 農林水産省中国四国農政局次長
島根県知事
安来市長 | 古賀 徹
丸山 達也
田中 武夫 |
| 3 | 選賞審査報告 | 農林水産祭中央審査委員会むらづくり分科会主査
（明治大学農学部専任教授） | 市田 知子 |
| 4 | 業績発表 | 令和6年度むらづくり部門天皇杯受賞
えーひだカンパニー株式会社取締役
" 取締役 | 田邊 裕子
野尻 ちさと |

・・・休憩（14:00～14:10）・・・

- 5 ディスカッション（14:10）
（登壇者）
- ・コーディネーター
市田 知子（3に同じ）
 - ・業績発表者
田邊 裕子（4に同じ）
野尻 ちさと（"）
 - ・コメンテーター
畠山 智之（農林水産祭中央審査委員会むらづくり分科会委員
（NHK財団専門委員 元NHKアナウンサー））
田中 武夫（安来市長）
保永 展利（島根大学学術研究院農生命科学系准教授）

（内容）

- ・意見交換、質疑応答
- ・総括

- 6 閉 会（15:30）

第38回「優秀農林水産業者に係るシンポジウム」出席者

R7. 2. 19 (敬称略)

区 分	氏 名	所 属 ・ 職 名 等
業績発表者	田邊 裕子	令和6年度農林水産祭むらづくり部門天皇杯受賞 えーひだカンパニー株式会社取締役
	野尻 ちさと	令和6年度農林水産祭むらづくり部門天皇杯受賞 えーひだカンパニー株式会社取締役
コーディネーター 及び選賞審査報告	市田 知子	農林水産祭中央審査委員会むらづくり分科会主査 (明治大学農学部専任教授)
コメンテーター	畠山 智之	農林水産祭中央審査委員会むらづくり分科会委員 (NHK財団 専門委員 元NHKアナウンサー)
コメンテーター	田中 武夫	安来市長
コメンテーター	保永 展利	島根大学学術研究院農生命科学系准教授
挨拶	古賀 徹	農林水産省中国四国農政局次長
	丸山 達也 (代読：原 幸生)	島根県知事 (農林水産部次長)
	田中 武夫	安来市長
司会・進行	小栗 邦夫	(公財) 日本農林漁業振興会常務理事

むらづくり部門

出品財 むらづくり活動

えーひだカンパニー株式会社
(代表 川上 義則)

島根県安来市



1 地域の概要

安来市は島根県東部に位置し、鳥取県と隣接する。南部は中国山地、北部は中海に注ぐ飯梨川・伯太川全流域が市域に含まれる。このうち比田地区は安来市の市中心部から35km離れた標高300～450mほどの盆地に位置し、東比田地区の「東比田振興協議会」、西比田地区の自治会組織が地域活動の主体となり、地域課題に関する話し合いや課題解決に向けた具体的な取組が行われていた。

2 むらづくり組織の概要

平成14年に浮上した地元の小学校の統廃合の話を契機に今後の取組を考える中で、拠点施設「比田いきいき交流館」を整備。地域の特産品づくりや販売に取り組み一定の成果はあったものの、人口減少や高齢化には歯止めがかからず、「このままでは比田がなくなる」との危機感から地域ビジョンの策定に取り組んだ。住民1人1人が比田の将来ビジョンを共有することが重要なことから全世帯の中学生以上にアンケートを実施するとともに、世代ごとのワークショップを実施。寄せられた1,469のアイデアから88のアイデアを採用し、平成28年に「比田地域ビジョン」が完成した。ビジョンの実現に向けた取組を進める組織として任意組織「えーひだカンパニー」を設立し、平成29年に株式会社化した。

3 むらづくりの取組概要

(1) 農業生産面

- ① 「比田米プロジェクト部」では高齢化等で作付けが困難となった農地を中心に営農をしている。また、ドローンによる農薬散布、リモコン除草機による除草作業などの作業受託は延べ194haで行い、高齢農家の営農を支えている。
- ② 安来節で有名などじょうも近年生産が減少しており、排水不良の水田を活用して令和5年からどじょう養殖を開始した。
- ③ 米価下落の不安から「比田米」ブランド化、日本酒・焼酎・米ビールなどの加工品を商品化し、売上高は増加している。

(2) 生活・環境整備面

- ① アンケートで多かった通勤・通学・通院・買い物の不便さ解消の地域ビジョン実現のため、「生活環境部」が「えーひだ交通運営協議会」と共同でデマンド交通を運営し、令和5年度には延べ1,045人が利用している。
- ② 買い物環境の悪化により、令和5年から高齢者の買い物支援、見守り活動を兼ねた移動販売車「ひだまり号」を運行し、81世帯が利用している。
- ③ 小学校との協働事業として子供たちが出店や商品開発、動画制作などに直接関わることで、自信や意欲、比田への郷土愛の醸成につながっている。
- ④ 指定管理を行う温泉施設「湯田山荘」では、令和6年1月から2月まで冬期の除雪作業が困難な高齢者の冬期一時居住用施設として試行し、6名が滞在した。

4 他地域への普及性と今後の発展方向

本取組は、農産物栽培、特産のどじょう養殖による地域の農用地の維持・活用、農作業受託により個別農家の営農面を支えており、さらに、地域の農産物を活用した多彩な商品開発、え〜ひだ市場（農産物直売所＋カフェ）の設置・運営を行うとともに、買い物弱者対策としての移動販売の実施や子育てサポート、温泉施設を活用した観光振興や高齢者生活支援などにより生活面の安定・生活水準の向上に貢献しているなど、幅広い取組を行っていることは特筆に値する。公的資金、公的支援を期待した従来型の地域運営組織と異なり、責任を明確にして持続できる組織形態として株式会社を選択し、「自治機能」と「生産機能」を車の両輪として事業を展開している本取組は、全国におけるむらづくりのモデル事例になり得るものである。

【開会】公益財団法人日本農林漁業振興会 常務理事 小栗 邦夫

敬称略（以下同じ）

定刻になりましたので、只今から「優秀農林水産業者に係るシンポジウム」を開催いたします。

私は、農林水産祭事業の事務局を務めております日本農林漁業振興会、常務理事の小栗でございます。皆様にはご多忙中のところ、またお足元の悪い中、多数ご参加いただきまして誠にありがとうございます。本日は、会場と合わせまして、オンラインでも、一方通行ではありますが、ご視聴いただけるようにしております。慣れない設営でございますが、よろしくお願いをいたします。

本日のシンポジウムは、農林水産祭で表彰されました優秀事例の成果を関係者の皆様に広くお伝えすることにより、今後の農林水産業の発展の一助になればと例年開催しているものでございます。農林水産祭は昭和37年から始まりまして、今年度で63回目を迎えます伝統ある行事でございます。このうち、表彰事業は、現在、7つの部門に分かれておりまして、過去1年間に各種のコンクールで農林水産大臣賞を受賞されました、今年度約500近い出品財の中から、厳正な審査を経て、天皇杯、内閣総理大臣賞、それから振興会会長賞、この三賞を授与されているところでございます。特に天皇杯につきましては、わが国で天皇杯というものが全部で30授与されておりますが、このうち、7部門が農林水産分野に下賜されておりまして、有名なのは、サッカーの天皇杯などがございますが、このうち、七つの部門が農林水産業にいただいているということは、ご皇室の農林水産業に対します厚い思いを非常にありがたく思っているところでございます。

今年度も、昨年11月、勤労感謝の日、昔で言いますと新嘗祭の日でございますが、明治神宮会館におきまして表彰式典を開催いたしました。本日はむらづくり部門で天皇杯を受賞されました島根県のえーひだカンパニー株式会社の田邊取締役、野尻取締役にお越しいただきました。改めましてお話を伺うとともに、学識経験者の方々と意見交換をお願いしたところでございます。天皇杯受賞後は何かとお忙しいかと思いますが、快くお引き受けいただきました。改めてお祝いと御礼を申し上げます。

それでは、本日は、共催いただいております農林水産省からは中四国農政局の古賀次長にご参加いただいております。農林水産省を代表してご挨拶をいただきます。

皆さん、こんにちは。ただいまご紹介いただきました中四国農政局の古賀でございます。農林水産祭「優秀農林水産業者に係るシンポジウム」の開催に当たり一言ご挨拶申し上げます。

本シンポジウムは、先ほどもご案内がありましたが、農林水産祭むらづくり部門で天皇杯を受賞された優秀な地域の業績の内容について広く普及することを目的に開催しているものでございます。このたび、天皇杯を受賞されましたえーひだカンパニー株式会社の皆様には改めましてお祝い申し上げたいと思います。誠にありがとうございます。川上代表取締役を初め、運営に関わってこられました皆様のご努力に心から敬意を表したいと思います。また、先月27日には天皇、皇后両陛下への拝謁を賜れたとお聞きしております。重ねてお祝い申し上げたいと思います。

えーひだカンパニー株式会社は、島根県安来市の比田地区にあり、中山間地域の農業生産振興と地域振興の両面に取り組む農村型地域運営組織、いわゆる農村RMOにご活躍されております。責任を明確化し、持続可能な組織を目指した株式会社を選択しておられまして、幅広い世代が携わり、多くの事業を展開するなど、全国のむらづくりのモデル事例となるものでございます。本シンポジウムでは業績発表やパネルディスカッションにおいて活動の深掘りが行なわれ、ご参加の皆様方におかれましては、学びの機会になるものと思っております。

本日のシンポジウムの開催に当たりましてご協力いただきました島根県の皆様、パネリストとして登壇いただきます田中安来市長様、また安来市の皆様、年度末のお忙しい中ご協力いただきまして誠にありがとうございます。また、雪が降ってお足元の悪い中、会場にご参加いただきました皆様、またオンラインでご参加いただいている皆様に、このシンポジウムに参加していただきまして本当にありがたくお礼を申し上げたいと思います。

このシンポジウムを契機としまして、全国各地でむらづくりのための創意工夫を凝らした自主的な取組が横展開し、豊かで住みよい農村を目指した取組がより一層進展されますことを祈念いたしまして、簡単ではございますが、開会の挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。（拍手）

○司会 ありがとうございました。続きまして、シンポジウムの開催に当たりましては、地元島根県の関係者の方々に大変お世話になっております。この場をお借りして厚く御礼

を申し上げます。本日は島根県知事の代理として農林水産部の原次長に参加いただいております。県を代表してご挨拶をよろしくお願いいたします。

【挨拶】 島根県知事 丸山 達也

(代読 島根県農林水産部次長 原 幸生)

島根県農林水産部次長の原でございます。本来ですと、知事がこちらにお伺いしてご挨拶をさせていただくところでございますが、本日、所用のためこちらに参ることができません。代わりに知事から祝辞を預かってまいりましたので、私から代読をさせていただきます。

本日、令和6年度第63回農林水産祭「優秀農林水産業者に係るシンポジウム」が盛大に開催されますことをお喜び申し上げますとともに、実施に当たりご尽力いただきました農林水産省並びに公益財団法人日本農林漁業振興会の皆様を初め、関係者の方々に深く敬意を表します。そして、令和6年度農林水産祭むらづくり部門において栄えある天皇杯を受賞されましたえーひだカンパニー株式会社の皆様方に心からお祝いを申し上げます。

えーひだカンパニー株式会社様が取り組んでこられた持続可能な農業生産活動と地域の福祉や定住促進事業を組み合わせた取組は、人口減少が進む中においても、将来に渡り持続可能な農業・農村の実現につながるものであり、県内の他地域、特に中山間地域のモデル的な取組であると考えております。県としましては、小さな拠点づくりのモデル地区として、地区間の連携や、高齢者の生活支援などの取組に対して支援をしてきたところであり、今回の受賞を契機にこうした取組が県内各地域におよび活力が向上していくことを期待しているところであります。

現在、島根県におきましては、県の最上位計画であります第2期島根創生計画の策定を進めております。人口減少に打ち勝ち、笑顔で暮らせる島根を創っていくためには、基幹産業の一つである農林水産業の振興はもとより、中山間地域では生活環境を維持していくための取組が急務であると考えております。

本日、ご来場の皆様方におかれましては、引き続き、島根県の農林水産業の振興と島根創生計画の実現に向け、一層のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

終わりに本シンポジウムのご成功と皆様方のご健勝、ご活躍を心から祈念申し上げて挨拶いたします。

令和7年2月19日 島根県知事 丸山達也

代読でございます。（拍手）

本日は、誠におめでとうございます。

○司会 ありがとうございます。

次に、開催地の安来市からは田中市長にご参加いただいております。ご挨拶をお願いいたします。

【挨拶】 安来市長 田中 武夫

皆さん、こんにちは。いまご案内いただきました安来市長の田中でございます。本日はこのようにたくさんの方々をお迎えいたしまして、農林水産祭のシンポジウムが開催されます。平素から、皆さんにつきましては、本市の農林水産に格別のご理解とご協力を賜っております。厚く御礼申し上げます。また、本日、このシンポジウムの主催者であります農林水産省様、そして公益財団法人日本農林漁業振興会様におかれましては、当安来市においてこのような機会を設けていただきましたこと深く感謝申し上げます。

そして、えーひだカンパニー株式会社の皆様、令和6年度むらづくり部門の天皇杯の受賞、まことにありがとうございます。この受賞は比田地域の皆様が一体となって山積します地域課題に取り組まれまして、地域の維持と発展にご尽力された結果として、地域の皆様を代表して、この団体が受賞されたものであると感じておりまして、心から地元の皆様に敬意を表する次第であります。受賞に至りました具体的な取組につきましては、この後、詳しく発表があると思いますが、住民アンケートや多世代参加のワークショップ、それを通じまして、88項目からなります地域ビジョンを策定され、その実現に向けて取り組んでこられました。こうした中において、比田地域小さな拠点づくり推進協議会を中心に、地域の課題解決に向けて住民の皆様が力を合わせる取組が島根県から小さな拠点づくりモデル地域推進事業の選定をいただきました。その事業期間中の令和2年度から令和6年度までの間に、島根県において多機能拠点施設が整備されましたほか、地域の皆様が主体となって、一丸となり、地域交通支援、高齢者生活支援、自主防災支援など、多くの取組が行なわれております。皆様方には今後とも中山間地域における農業などを通じた産業の振興と地域の発展のため、挑戦が続けられますことを期待しております。

最後になりますが、本シンポジウムの開催にご尽力いただきました関係者の皆様に御礼申し上げますとともに、ご参集の皆様のますますのご活躍、ご健勝を祈念いたしまして、簡単ではございますが、挨拶とさせていただきます。本日はよろしく願います。（拍

手)

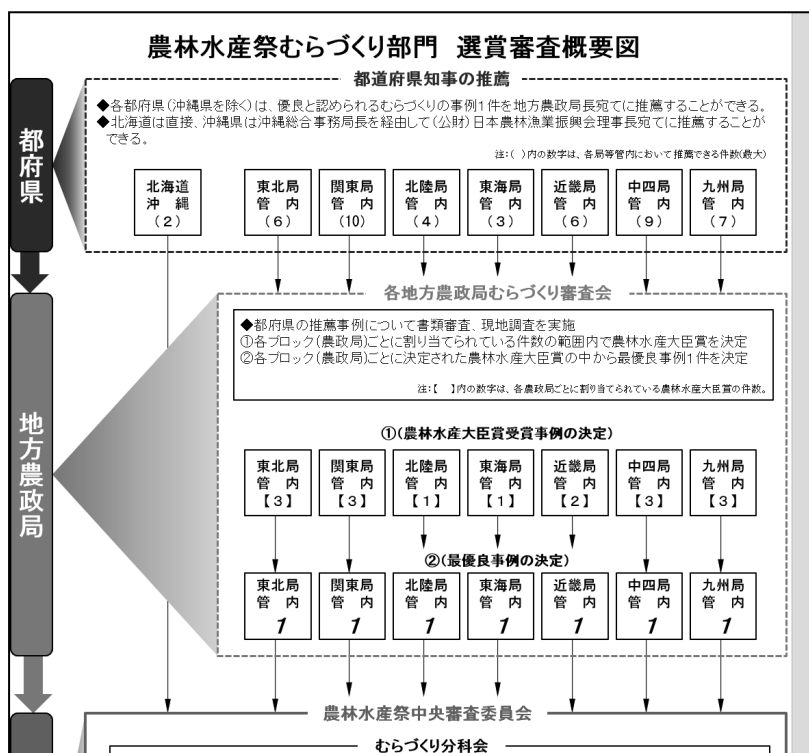
○司会 ありがとうございます。それでは、これから議事に入ります。まず、最初は選賞審査報告でございます。中央審査委員会、むらづくり分科会の主査であります明治大学農学部市田専任教授にお願いをいたします。

【選賞審査報告】農林水産祭中央審査委員会むらづくり分科会主査 市田 知子
(明治大学農学部専任教授)

皆様、こんにちは。審査に当たりました市田と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、資料に沿って選考の経緯についてご報告いたします。

こちらにありますのは、まず中央審査委員会という私どもの委員会、さらに分科会が部門ごとに設置されています。こちらはむらづくり分科会です。昨年の7月31日にまず第1回のむらづくり分科会が行なわれました。現地調査のために安来市、にお邪魔したのは8月23日でした。そのほかに8月16日、27日と、別の所も調査をいたしました。最終的に第2回の9月3日の分科会で選考をいたしました。



選賞の審査基準はこちらにあるとおりです。赤で示しましたように、まず、むらづくりのための自主的な努力と創意工夫です。これはまさにえーひだカンパニーのすぐれた点です。それからむらづくりの合意形成の状況、さら

にむらづくりの推進体制の整備・運営、むらづくりの地域農林漁業の振興、担い手の育成、最後にむらづくりの豊かで住みやすい農山漁村の建設、いずれも「言うは易し、行うは難し」で、実現に至るのは難しいことです。

少し戻りますが、分科会の前に地方農政局で審査があり、令和6年度は15事例が農林水産大臣賞を受賞しました。この中から、7つの各地方農政局で最優良事例が選考されました。中央審査委員会では、この7つの事例

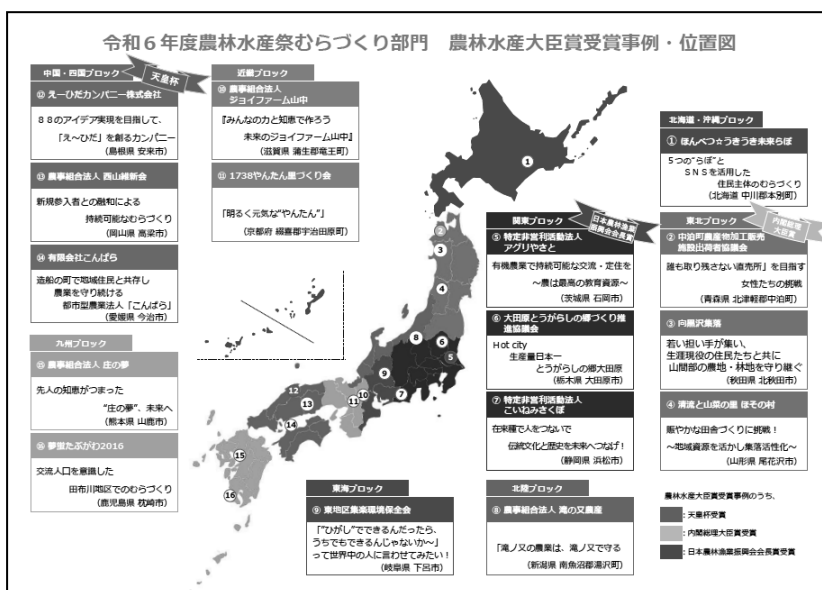
に北海道・沖縄ブロックから推薦された優良事例を加えて、8つの事例について審査を行い、最終的には全国から3つの候補に絞られました。

では、今回受賞されたえーひだカンパニーについて、後ほど代表の方の説明がありますので、私から印象を含めて簡単に紹介させていただきます。

まず、評価ポイントの一つ目としましては、「説得することにエネルギーを費やすよりも、まず結果を出して納得してもらった」、つまり前向きな態度というのが大きかったのではないかと思います。「足を引っ張るのではなく、手を引っ張る」、そういう言葉も使

選賞審査基準

- ・むらづくりのための自主的な努力と創意工夫の状況
- ・むらづくりの合意形成の状況
- ・むらづくりの推進体制の整備・運営の状況
- ・むらづくりの地域農林漁業の振興とその担い手の育成への寄与状況
- ・むらづくりの豊かで住みやすい農山漁村の建設への寄与状況



われていますが、地域の中で
の合意を形成する上で大切な
ことで、もちろん難しいので
すが、それを努力してなさっ
ていたということがあります。

次に2点目の評価ポイント
ですが、あらゆる世代がその
能力なり、適性を生かしてむ
らづくりの活動に参加するよ
うにしていってということ
です。スライドにご紹介の
ある方は大学生のときから
むらづくりに関わっていた
とお聞きました。現在、銀
行に勤めながら、書道の腕
を生かして、日本酒のラベ
ルのロゴを書いてくださっ
たそうです。このように若

い人がそれぞれの特技を生かして、楽しく参加しているということがあります。また、介
護士の方も介護の知識なり経験を生かして、温泉施設を高齢者のために冬期だけ滞在でき
るように整備するなど、それぞれの特技や役割を遺憾なく発揮しているというところが2
点目の評価ポイントかと思
います。

3点目としましては、メ
ンバーの多くが40代、50代
と、全国の農村の現状から
見ると、若いことがありま
す。20代の方、女性の方も
関わっています。若い人、
さまざまな職業の方々が仕

えーひだカンパニー株式会社【評価ポイント①】

①地域から反発があった時に、説得することにエネル
ギーを費やすよりも、まず結果を出して納得して
もらったとのこと。
村社会の中で組織を大きくするための一つの賢いやり
方だと感じた。



地域住民によるワークショップ

えーひだカンパニー設立総会

えーひだカンパニー株式会社【評価ポイント②】

②書道が得意な20代の銀行員
の女性がお酒のラベルの文字
を担当、湯田山荘は介護士の
女性が運営し、高齢者の冬期
滞在利用など、自分の役割を
持てる喜びが活動の原動力と
なっている。



女性銀行員が書いたお酒のラベル



えーひだカンパニー株式会社【評価ポイント③】



③中心メンバーの多くが40～
50代と若く、中には20代のメ
ンバーもいる。リーダーがい
なくなっても活動が自然消滅
しない株式会社という新しい
形をとっている。

持続可能な組織となるために

2017年3月1日

えーひだカンパニー株式会社
として法人化

<会社化を選択した理由>

- ①継続性
- ②社会的信用力
- ③責任（社会的責任、株主への責任）



若者 高齢者
比田を未来へつなげるために協力

事を続けながら活動に関わっているという点が優れた点として挙げられます。

4つ目は補助金との関係です。ご説明によると、起ち上げの段階では補助があったそうですが、運営が始まってからは自力でなさっているとのこと。理由としては補助金に頼ると、そのための取組になってしまう。自分たちが

やりたいことにチャレンジする上でも補助金に頼ってはいけないということです。これも言うのは簡単ですが、実際行なうのは難しいことです。実績としては、売上は上昇していき、まさに補助金がなくても当初の目的を実現されているのがわかります。

用意した資料は以上ですが、総じて申し上げますと、農村では長年、地元に住んでいらっしゃる年配の方、長老格の方の意見が強く通ってしまっていて、若い人、新しい人、女性、なかなか中心的な話し合いの場に入っていきにくいということがいまだにあるようです。えーひだカンパニーの話を聞く限りでは、そういったことは全くないかどうかわかりませんが、いろいろな人が参加しやすい雰囲気づくりに成功されているという印象を持ちました。

簡単ですが、私からの説明は以上です。（拍手）

○司会 市田主査、どうもありがとうございました。続きましては、業績発表でございます。えーひだカンパニー株式会社の田邊様、野尻様、よろしくお願いいたします。

【業績発表】令和6年度（第63回）農林水産祭むらづくり部門 天皇杯受賞

えーひだカンパニー株式会社 取締役 田邊 裕子

〃

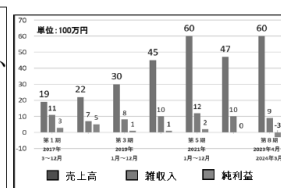
取締役 野尻 ちさと

○田邊 皆様、改めまして、えーひだカンパニーの田邊と申します。今回、このような天皇杯という賞を受賞させていただいたことは本当に関係者の皆様や地域の皆様に感謝の気持ちしかありません。そしてまた、今日は貴重な時間、私たちの発表を聞いていただきありがとうございます。これからよろしくお願いいたします。（拍手）

○野尻 えーひだカンパニー取締役の野尻ちさとと申します。よろしくお願いいたします。

えーひだカンパニー株式会社【評価ポイント④】

④補助金に頼ると補助金をもらうための取組が変わってしまい、自分たちがやりたいと思えることにチャレンジできなくなる。そのためなるべく補助金は使っていないという話が印象的。



それでは、早速発表させていただきます。皆様にお配りしていただいている資料に沿ってお話しさせていただきます。

私からは、比田地区の概要についてと地域活性化プロジェクトについての話をさせていただきます。

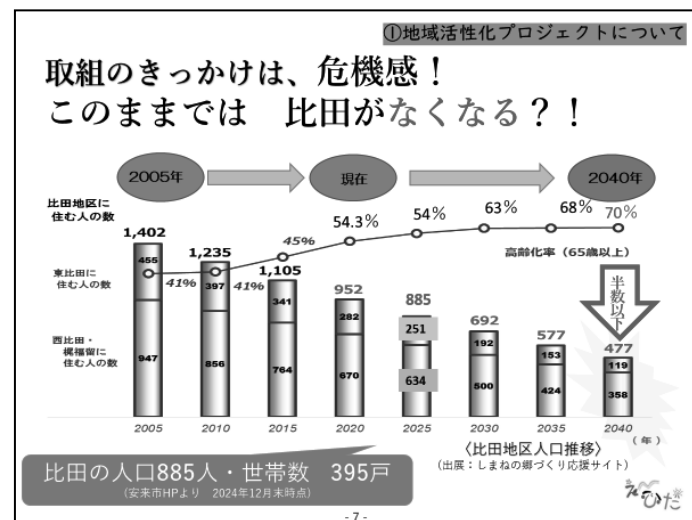
まず、比田の紹介を少しさせていただきます。全国1,200社を超える「金屋子神社」の総本山

があります。日本遺産にも指定されています。冬季の積雪量は多いということで、この2月に入ってからたくさん雪が降りまして、多いところだと、トータルで1mぐらい降ったかなと思います。こういった農業が主産業で段々畑がたくさんあります。あと、安来市の無形文化財に指定されている比田踊り、こういった伝統文化も継承されています。

安来市の最南端にありまして、西比田、梶福留、東比田と三つの大字が比田地区となっています。安来市の中心地からは35キロ離れていて、標高は300mほどの高原性の盆地です。比田地区の現在の人口ですが、2024年の12月末時点で、885名、世帯数が395です。こちらは地域の学校施設の状況を示しています。当初は西比田地区と東比田、それぞれに保育所、小学校、そして西比田のほうには中学校があったのですが、2004年の統廃合で一つずつ、西のほうに集約されてしまっていて、さらには2007年に中



こういった課題がありながらも地域を残していきたいということで、発起人は比田在住で、当時30代の市役所の職員の方で、当時70代のリーダー的存在であった方に将来の目指すべき姿を住民一体で考える地域ビジョンづくりを地域でやりましょうということで提案されて、この考



その地域ビジョンづくりを進めていく上で、やはり地域の中の人だけでは、普段のお仕事もいろいろあるので、なかなかむずかしかったので、外部人材ということで地域おこし

協力隊の受け入れもキーポイントになるのです。こちらの表が今まで、それぞれの係わり度合いはいろいろあるのですが、地域おこし協力隊として比田に関わった方のリストです。ちなみに私も、この2番目に書いてあるのですが、京都から地域おこし協力隊としてやってきまして、地域活性化プロジェクトの推進に携わらせていただいて、今も会社で働かせていただいています。

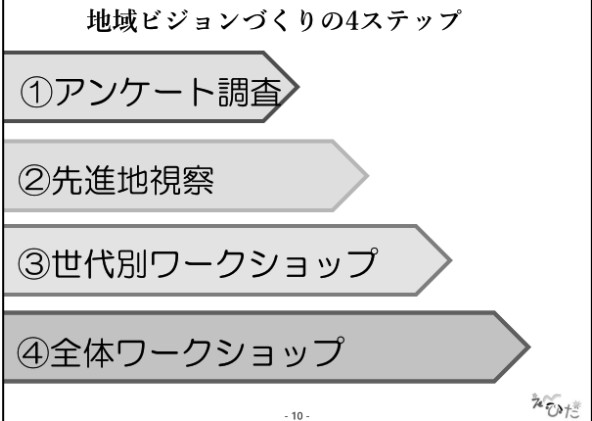
キーポイント☆地域おこし協力隊の受け入れ

配属当時の年代	出身地	配属日	配属課	活動内容
Aさん男性 (20代後半)	大阪府	2015年	農業振興課	比田地区の農業振興。地区内の農家で研修の傍ら地域活性化プロジェクトにも関わる
Bさん女性 (20代後半)	京都府	2015年	農業振興課	比田地区の地域活性化プロジェクトの推進。
Cさん女性 (20代後半)	岡山県	2016年	農業振興課	比田地区の農業振興。地区内の農家で研修の傍ら地域活性化プロジェクトにも関わる
Dさん男性 (30代後半)	京都府	2019年	農業振興課	えーひだカンパニーの農業部門で活動。農閑期は事務作業の手伝い
Eさん男性 (10代後半)	鳥取県	2020年	農業振興課	えーひだカンパニーの農業部門で活動。農閑期は事務作業の手伝い
Fさん男性 (30代後半)	大阪府	2022年	観光振興課	安来市の農村・観光振興。比田地区ではえーひだドリームの温泉事業で活動
Gさん女性 (20代後半)	バンングラデシュ	2022年	観光振興課	安来市の農村・観光振興。商品等のデザインやイベントへの参加で比田地区に関わる。
Hさん男性 (20代男性)	兵庫県	2024年	やすぎ暮らし推進課（定住促進）	安来市の移住定住の推進。イベント等の参加で比田地区に関わる。

みど

地域ビジョンづくりの4ステップについてお話をさせていただきます。

最初にアンケートの調査を行ないました。こちらは全世帯中学生以上が対象で、進め方としては、自治会長協議会のほうで、18自治会あるのですが、その自治会長さんに配布・取りまとめの依頼をさせ



ていただきました。そういったご協力もあって、回答率が約90%と高い数字を得ることができました。アンケートの回答の一例を見てみますと、たとえば農業に関することで見させてもらと、「農業の活性化には何が必要だと思いますか？」という問いに、お米のブランド化と販売促進。あと、集落営農の推進、そういった住民の方のご意見があったのが印象的でした。

①アンケート調査 全世帯・中学生以上対象 自治会長に配布・取りまとめを依頼

《世帯主用》

《個人用》

10年後の比田を想像してお答えください

はい 11% 33% 55% 11%

回答率 約90%

《比田地区アンケート調査用紙》

10年後の比田を想像してお答えください

はい 11% 33% 55% 11%

回答率 約90%

みど

質問：10年後あなたは比田に住んでいると思いますか？

わからない 33% はい 55% いいえ 11% 未回答 1%

質問：農業の活性化には何が必要だと思いますか？

米のブランド化と販売促進 100% 米以外の地域特産品の加工・販売 100% 観光振興 100% 地域振興 100% 定住支援の推進 100%

質問：地域の活性化には何が必要だと思いますか？

都市圏との交流の場づくり 100% 近隣地域との連携 100% 定住支援の推進 100% 米のブランド化と販売促進 100% 新たな産業の創出 100% 安心して暮らせる仕組み作り 100%

みど

続いて、先進地視察にも行きました。地域づくりや多角的な農業経営の先進事例を調査

して、ビジョンの作成のヒントとしてイメージを明確にしたいという目的で行きました。

続いて行なったのは世代別ワークショップで、小学生から60代以上まで五つの世代でチーム分けして行ないました。こちらの写真は小学生のワークショップですが、小学校が全面協力で授業の一環で取り組んでいただきました。こういったワークショップがきっかけとなって、いまでもえーひだカンパニーとのつながりもありまして、いろいろな小学校とタイアップした活動につながられているかなと思います。ほかの世代の様子です。全体のワークショップを地域ビジョン作成の集大成として行ないました。こちらは中学生以上全世代が参加しまして、ワールドカフェ方式といって、話すメンバーがテーマによって変わる形で行ないました。講演会を前段で行なって、地域づくりに対する意欲を高めてもらったり、あとは、おにぎり、豚汁とかの振る舞いをして、お祭りのような楽しい雰囲気づくりを心掛けました。当日は120人集まっていたいて、当時の比田の人口の10分1以上がこのときに集まっていたような形です。

②先進地視察

地域づくりや多角的な農業経営の先進事例を調査し、ビジョン作成のヒントとする

視察先

○兵庫県 農業生産法人
(有) 夢前夢工房
○東広島市 共和の郷・おだ



- 13 -

③世代別ワークショップ

小学生～60代以上まで5つの世代でチーム分け、話し合うテーマは統一
“地域の課題、いいところ、比田がこうなったらいいな”



- 14 -



- 15 -

④全体ワークショップ

全世代が参加
地域ビジョンづくりへの気持ちを高める
具体的なアイデアを得る目的で実施



- 16 -



- 17 -

そして、約1年かけて地域ビジョンが完成しました。アンケートからワークショップを通して1,469個もの地域をよくするアイデアが出てきたのですが、それをメンバーで集約しまして88にまとめました。「比田を愛し、行動し、誇りに思える地域に」というテーマで地域ビジョンをつくりました。

そして、実現に向けてということで、これからが大変ですが、このビジョンを実現するにはこういった体制がいかにということで協議を重ねまして、まずは2016年の8月に「え〜ひだカンパニー」という任意組織を立ち上げました。そして、持続可能な組織になる

ため、より強くしていくためにということで「え〜ひだカンパニー株式会社」として2017年3月1日に法人化しました。法人化をした理由ですが、私たちが考えるには、人が代わっても継続する仕組みであるとか、社会的信用力の高さの一つになるのではないかと、あとは責任の明確さ、社会的責任、株

主への責任、そういったことで前向きに進めるのではないかとということがありましたし、法人化の中でも株式会社を選択したのは、事業の制約を受けないわけではないですが、受けにくいのではないかと。あとは、株式出資という形で地域づくりに参加してもらえる、そういったことを理由としています。

私たちの会社の特徴としてありますのが経営理念です。「自治機能と生産機能の発揮による地域ビジョンの実現と「え〜ひだ」の創造」と書いていますが、自治機能というのは定住の促進であったり、お年寄りのサポートのような福祉的な事業、そういった地域づく

地域ビジョン完成！

こうしてできたアイデア総数…

1469

↓

88

・効果の大きさ
・緊急性の高さなど
5段階で評価
評価点の高いものを
中心に選定



比田を愛し、行動し、
誇りに思える地域に

『比田を愛し、行動し、誇りに思える地域に』

誰もが、人や地域を思いやる心を育む
どうしたら比田が良くなるのかを主体的に考える
様々な人とのつながりを大切に、自ら行動する。
共有して今日も明日も明後日も、そして10年後も「ずっとえ〜ひだ」と
実感できる地域を目指す。

え〜ひだ

- 18 -

地域ビジョン実現に向けて

2016年3月ビジョン完成

↓

協議を重ねる
○体制づくり
○リーダーの人選
↓
○メンバーの勧誘

↓

2016年8月
任意組織
《え〜ひだカンパニー》

メンバー総勢73名
(大半が40代)



え〜ひだ

- 19 -

持続可能な組織となるために

え〜ひだ

2017年3月1日
え〜ひだカンパニー株式会社として法人化！

＜会社化を選択した理由＞

①人が代わっても継続するしくみ
②社会的信用力の高さ
③責任の明確さ（社会的責任、株主への責任）

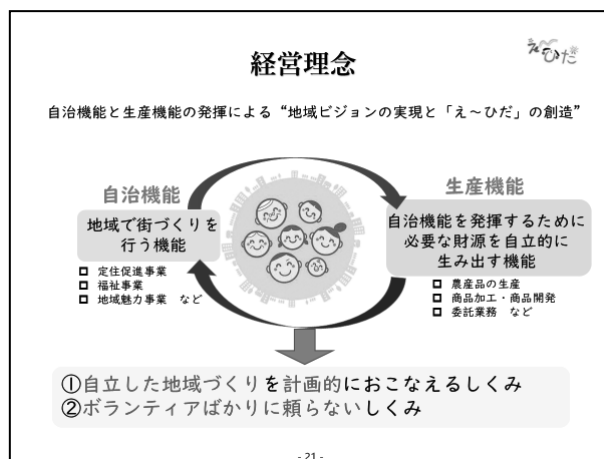
＜株式会社を選択した理由＞

①事業の制約を受けない
②株式出資という形で地域づくりに参加してもらえる

地域ビジョン41
まるごと会社化

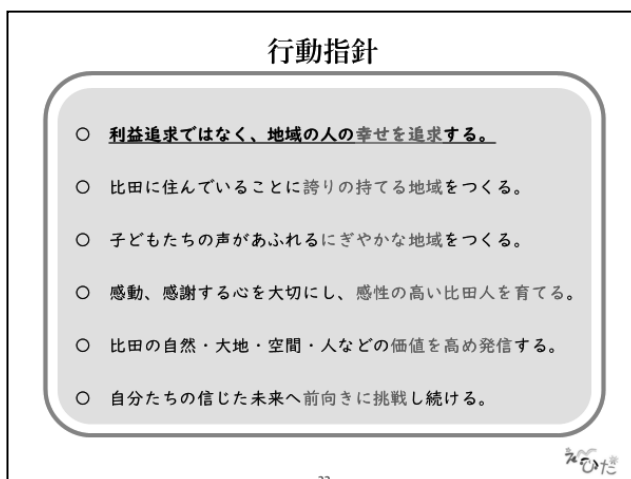
- 20 -

りの機能は地域を維持していく上でとても重要ですが、これ単体では財源を生み出すことはなかなか難しい機能になっています。一方、生産機能と呼んでいるのが農作業の受託業務であったり、商品の加工、開発など、こういった機能は必要な財源を自立的に生み出すことができます。自治機能と生産機能



能を自転車の両輪のように合わせていくことで、下を書いてありますが、「自立した地域づくりを計画的におこなえるしくみ」であるとか、ボランティアも必要ですが、「ボランティアばかりに頼らないしくみ」というのが実現できるのではないかとということで、そういったことを目指しています。

行動指針。六つ掲げています。一番大切にしたいと思っているのは、株式会社ですが、「利益追求ではなく、地域の人の幸せを追求するということを大事にしたい」と考えています。



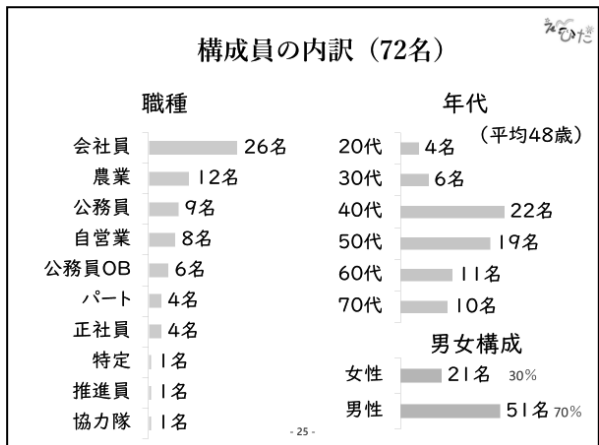
会社概要です。比田地区で唯一の商店を経営されている川上義則さんという方が社長をされています。えーひだカンパニーは現在五つの部でできていて、一番右の温泉事業部というのは、えーひだカンパニーの子会社、えーひだドリーム株式会社というところで温泉事業をしています。事業の進め方ですが、真ん中に書いてあります取締役会兼運営委員会というのを月1回、大体、夜、皆さん、ほかの仕事がある



ので、仕事終わりに集まってされて、社長を初め、各部の部長、取締役などが出席して、各部の事業の進捗状況を発表したり、新しい事業について協議して、ここで決定したら進

農村RMOと「特定地域づくり事業
協同組合」の連携ということで、私た
ちえーひだカンパニーも組合員の1事
業所として関わらせていただいて、地
域づくり人材が安心して活躍できる環
境を整備していきたいと考えています。

私からの発表は以上です。



○田邊 続いて、実際に今どんな事業をやっているのかというところを私からお話をします。

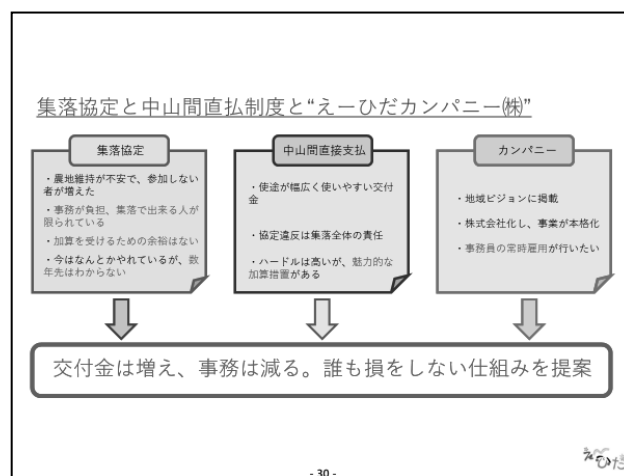
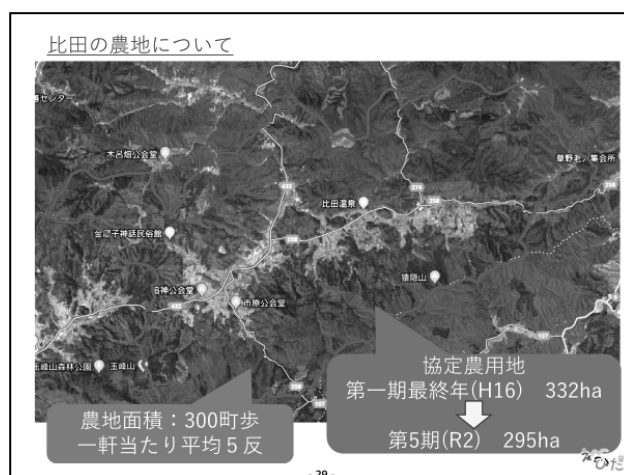
まず、やはり私たちは自分にできることというところで活動に参加するというスタンスでやっています。

総務部です。総務部のメンバーは市役所職員であったり、介護系の事務局長ができるぐらいの経営がわかる人というか、頭脳集団といっているのですが、いろいろな計画をきっちり整えてくれています。その中で今回、中山間直払い事業について詳しく説明させていただきますと、やはりいま比田にある農地面積、これも協定用地がどんどん減ってきているという現状がありました。その中で、集落協定の広域化や、加算の交付金を取得し交付金は増えて、事務は減る、誰も損しない仕組みを提案しました。

希望の合った方で協定を組みましょうと。その中で、交付金の全体の10%の額を、事務と会計を請け負いますので、カンパニーに手数料としていただけないでしょうかという提案をしました。

協定の組み方とか、事務の内容について、事務局の方に集まっていたいて、こんなメリットであったり

というところを説明した結果、18の集落の中で13の集落の方が広域化に参加するということで、カンパニーに事務を頑張ってほしいなというところで手を挙げていただきました。



13を四つの協定にしまして、加算のところ、広域化加算とか、生産性向上加算とか、こういうものを、農産品や加工品のネット販売とか、あと、ラジコン草刈り機による受託作業であったり、集落機能加算のところでは移動販売を頑張りますよというところを提案して、実際にさせていただいているところです。カンパニーで一緒にやることによって、交付金が増えたことや、事務が軽減されたというところで、事務を25年選手でされている方もいらっしゃるって、なかなか後継者がいない上に、だんだんにパソコンについていけないなというところを、いま野尻が担当しているのですが、「ちょっと相談があるんだけど」みたいな感じで頼りになる存在というところで一緒に事務を整理して、カンパニーでまとめて、安来市さんのほうに提出するという窓口の業務をさせていただいています。

説明会を開催・・・カンパニーからの提案

○概略
希望のあった協定の統合を行います（強制ではありません）

○目的
・直払事務の省力化
・加算交付金の取得

○内容
・統合希望のあった協定間を調整し、手続きを行います
・交付金本体の10%の額で事務と会計を請け負います
・加算措置を受けるための取り組み要件を行います

1

- 31 -

説明会を開催・・・統合後のイメージ

AB統合協定
A協定
交付金
本体
+
加算金
B協定
交付金
本体
+
加算金
事務報酬
10%
協定前事務負担として
事務と会計事務
の報酬を天領

えーひだカンパニー
事務報酬の10%を原資に、以下の取り組みを実施
直払事務
・協定書作成
・交付申請
・収支報告
・実態報告
・変更調査
・収入支出の管理
・金融機関の入出金
・各種支払
直払取組み
・加算要件の取組み
その他
・米の有利販売などの
営業活動

メリット
・交付金の総額増
・事務負担の減
・有利販売による所得増

・雇用の確保
・財源の確保

2

- 32 -

1.3 協定が4協定に広域統合（H29年度）

比田中央
4 等の上
6 古市
5 新之島
1 横田
2 駒場
3 坂
東比田
12 渡谷
13 志木GENKI
14 永田
15 渡底
17 新谷
11 季原・横山
12 高瀬
13 北平
14 渡中
15 渡底山
16 山崎
17 山崎
18 山崎
19 山崎
20 山崎
21 山崎
22 山崎
23 山崎
24 山崎
25 山崎
26 山崎
27 山崎
28 山崎
29 山崎
30 山崎
31 山崎
32 山崎
33 山崎
34 山崎
35 山崎
36 山崎
37 山崎
38 山崎
39 山崎
40 山崎
41 山崎
42 山崎
43 山崎
44 山崎
45 山崎
46 山崎
47 山崎
48 山崎
49 山崎
50 山崎
51 山崎
52 山崎
53 山崎
54 山崎
55 山崎
56 山崎
57 山崎
58 山崎
59 山崎
60 山崎
61 山崎
62 山崎
63 山崎
64 山崎
65 山崎
66 山崎
67 山崎
68 山崎
69 山崎
70 山崎
71 山崎
72 山崎
73 山崎
74 山崎
75 山崎
76 山崎
77 山崎
78 山崎
79 山崎
80 山崎
81 山崎
82 山崎
83 山崎
84 山崎
85 山崎
86 山崎
87 山崎
88 山崎
89 山崎
90 山崎
91 山崎
92 山崎
93 山崎
94 山崎
95 山崎
96 山崎
97 山崎
98 山崎
99 山崎
100 山崎

- 33 -

統合後・・・カンパニーでは

・事務員を雇用し、協定会計の出金や、書類作成事務を行う。

請負報酬の3,557千円は主に・・・
・事務員1.5名分の人件費
・加算要件達成のための経費

統合後・・・まとめ

・交付金が増えて、共同活動に充てるお金が増えた。
・事務が軽減された。特に収支報告が楽になった。
・15ha以上となり、集落戦略を作成することができるようになった。

- 35 -

生活環境部です。いま移動販売を頑張っています。今日も雪の中、頑張って出発しました。昨日、あるおばあさんから電話がありました。先々週、実は雪が多かった。「このところ、雪が多いと移動販売がないんだけど、私は牛乳とお菓子和何かおかずになるようなものが欲しい」と。

生活環境部

地域ビジョン15
比田ぐるり移動販売車

移動スーパー
始まります

お申込みお待ちしております

0854-26-4010

- 36 -

「最悪、配達になるかもしれませんね」みたいな話をしたら、やっぱり見て買うのが楽しいそうです。皆さんから期待されてやっている事業です。この事業は先ほど市長のお話にあったように、比田地区がモデル事業というところで採択していただいたおかげで整った事業でもあります。

あと、比田の取組の中ではえーひだカンパニーキッズの活動が次世代の育成というところで、比田のことが大好き、誇りに思う、比田のために何か僕たちもできること、私たちができることという心が育つというところでは大きな事業で、一番メインでやっているのは夏にやっているサマーフェス



タの出店です。自分たちで考えて、カンパニーの人たちと一緒に知恵を出し合って、こんなことをやったら、こんなふうに皆さんに喜んでいただけるのではないかとというところで頑張っています。

あと、地域から出産おめでとう祝い事業ということで、業者の方から出していただいたものや、個人から提供してもらったプレゼントを持って行って、若い方とのつながりを持つということ、地域全体で応援しようという事業なんです。これは平成28年から始めて、比田地区は今22組の赤ちゃんが生まれたところにお祝いに行っています。

収益事業で一番頑張っているのは比田米プロジェクト部です。JAさんから育苗の事業の受託を受けまして、令和6年は4万枚近くの苗箱をつくることを頑張りました。また、今度、春が来たら、育苗事業を頑張ろうと思っています。



ドローンの事業も、カンパニーが立ち上がってすぐに始めた事業です。その頃はまだ無人ヘリコプターでやっていた時代でしたが、いち早くドローンの事業を取り入れて、スマート農業化に頑張っています。

ラジコン草刈り機も、コロナの補助金等を活用して導入して大活躍しています。

堆肥散布の事業も、最初に始めた事業ですが、皆さん、堆肥散布を心待ちにされていて、秋も、春もフル活動でやっています。

アンケートにありました比田米の販路拡大というところで、松江の米穀店さんとのタイアップをして販路拡大というところで集荷事業もやっています。

あと、耕作放棄地をうまく活用しようということで、そば栽培や小麦栽培にも力を入れています。今日も、皆さんに見ていただけたらというところで、そばや、ラーメンの商品を持ってきたので、良かったら見てください。

私、比田キッチン部の部長をさせていただいて、キッチン部のお仕事というところではなかなかうまく力が発揮できているかどうかというところですが、今女性のスタッフと一緒にえーひだ市場とか、カフェの部門の事業をいろいろ考えながら、お客さんに喜んでもらえるようにと頑張っています。

地域魅力部は、交流館周辺を賑やかにしたいということでイベント開催に力を入れています。ファンをたくさんつくろうということで、いろいろなアイデアを出しながらいろいろな催しをやっていきます。その中でフォトコンテストにも力を入れていまして、比田地区のいろいろないい写真を皆さんに撮っていただいて、応募していただいたものでカレンダーを作成して販売しています。

あとは、いろいろ部をまたいだプロジェクトチームをつくって、市場を活性化させることや、安来市立病院で運営させていただいています売店、こちらもアンテナショップの位置付けで比田の情報発信をするようなことをして、ここでもお米なども置かせていただいているのですが、ここを中継地点にして比田の商品を買ってくださる方も少しずつ増えています。



あと、温泉事業部。温泉も先ほどワークショップで小学生の写真を見ていただいたのですが、小学校1年生がアイデアを考えてくれたときに、温泉の横に流れている小川を川の水族館にしてお客さんに見てもらったり、触れてもらえるようなことをすると、お客さんが増えるんじゃないかと。小学校1年生がこんなすてきなアイデアを、そのときにも言ってくれたのですが、何とか比田の自然をうまく活用して体験型ということでお客さんを増やそうというところでいま頑張っているところです。

ここで、先ほどお話があった冬季一時居住施設というところで湯田山荘をうまく活用して、安心して冬季も過ごせるようにということで、いま制度を整えているところです。

実際に2023年の売上状況です。それぞれの部門の売上です。大半が農業部門の収益というところです。

実際の2023年の売上状況です。それぞれの部門の売上です。大半が農業部門の収益というところです。

次の経営状況というところですが、きちっと計画を立てながら、その計画に沿った運営ということで頑張っていこうとやっではいるんですが、去年は新たに移動販売を始めたり、多機能拠点施設ということで市場をリニューアルしていただいて、カフェも併設していただきました。私がこうやって専属で事務局をさせていただいて、市場のほうもマネージャーということでさせていただいているんですが、私は本当に経営のことが全然わからなくて、商売もしたことがなかったので、商売がこれだけ大変なことかというのが身に沁みました。仕入れのコントロールもうまくできませんでしたし、粗利というところの計算も全然追いついていなくて、結局、3月に決算をしてみたら300万円の赤字でした。今期はこれをどうにかトントンにできるようにということで、数字を追いかけてながら、また3月に決算をしないといけないので、今年はどうにか赤字がなくなるように願って毎日やっています。



比田の特産ということで皆さんにしっかり比田をPRするにはというところで、野尻はデザインが得意だったので、米袋のデザインを考えてくれたり、私たちが着ているポロシャツも彼女がデザインしてくれたのですが、見た目というところでも、女性の方に手に取ってもらえるというところを

すごく大事につくっています。この「たたらそば」も、なかなか自分たちでつくことはできなかったんですが、雲南市の出雲たかはしさんのほうで、そば粉を使ってそばをつくってあげるということで、こういう商品開発につながりました。先ほど20代の女性が字を書িয়েくれたり、地元のイラストレーターの方にラベルのデザインをしていただいたり、このネーミングも比田全体に公募して、皆さんに応募していただいて、二十何点応募があったのですが、その中からみんなで選んでネーミングをして、みんなのいろいろな思いを込めて商品開発も大事にしています。

比田米ビールというのも作ったのですが、比田のコシヒカリを原材料にして作ってもらったんです。出雲の多伎の方とマルシェで知り合って、そこから私たち地域の資源を使って何か特産をつくりたいという思いを共有していただいて、こういう商品開発につながったということです。

です。本当にいろいろな出会いを私たちは大事にさせていただいて、商品開発を広げるに当たっても、こういうところを大事にしています。

小麦を比較的つくりやすいということで、結構たくさん小麦をつくってしまいました。でも、その小麦がなかなか使えなくて、売り切ることができなくて、在庫を抱えていて、JAさんにもお願いして、何とかつてがないかというところで苦労し煎餅屋さん

に頼んで、うちのえーひだ煎餅ということ

比田の恵みを詰め込んだ商品の開発

①比田米（ひだまい）

比田特有の昼夜の寒暖差や清流により育まれた比田で生まれたブランド米。
2017年 県内の米穀店へ販売スタート
特選の『比田米プレミアム』が安来市のふるさと納税返礼品デビュー
2018年 定住促進部で米袋デザインを製作
2020年 えーひだ市場にて販売スタート



②たたらそば

比田の綺麗な空気と水で育ったそば（信濃一号）を使用して作ったオリジナルそば
2020年6月 そば開発スタート
11月 販売開始



- 47 -

比田の恵みを詰め込んだ商品の開発

③純米吟醸 たたらの舞・たたら

島根県の新品種酒米「緑の舞」を使用した日本酒
2019年 島根県酒米「緑の舞」作付開始
広報誌にて地酒の名称募集
2020年 日本酒『たたら風』完成
えーひだ市場にて販売開始
粕取り焼酎『たたら舞』販売開始
2021年 辛口『たたら舞』販売開始



④比田米ビール

比田米を使った地ビール
2023年 えーひだ市場リニューアルオープンに合わせて販売開始



- 48 -

比田の恵みを詰め込んだ商品の開発

⑤たたらラーメン

比田産小麦を使った作ったオリジナルラーメン
山陰の特産品を使用した三種のスープ。（隠岐あごだし醤油、大山どり塩、穴道湖しじみ味噌）
2020年 販売開始、ふるさと納税返礼品登録



⑥比田し中華（ひだしちゅうか）

夏季限定商品として冷やし中華ならぬ＜比田し中華＞を考案。
南高梅、酸辛油、練り胡麻、柚子の4種のスープ
お中元に人気
2019年 販売開始



⑦比田産小麦粉を使ったスイーツ

安来市内の洋菓子店Yume Sweets Atelierとのコラボで比田産小麦クッキーが誕生
2022年 えーひだ市場にて販売開始
2024年 安来節屋とのコラボでえーひだ胡麻煎餅が誕生



- 49 -

で作ってもらい、いろいろなつながりを何とかたどってということで小麦も消化するようにしています。

あと、製粉会社さんが、大麦がバズるよと言ってくださったので、大麦を作ってみたものの、なかなか商品にできなかったんですが、麦茶を作ろうということで、昔ながら麦茶、これがふるさと納税の返礼品でちょっとずつ動くようになっています。

カフェも、コンセプトは交流と健康ということで、地域の皆さんがお茶を飲みに来てもらえるところとか、通りすがりの方に休憩してもらいたい。目掛けて来てもらうというところも大事にしたかったのですが、何か比田のものを使った商品ということで、産学官金連携ということで、情報高校の生徒さんとのコラボで

玄米甘酒チーズケーキを商品にしようということで、これもケーブルテレビさんのほうで特集を組んでいただいてテレビで流していただいたり、ラジオの放送に出させていただいたりということで、「テレビ、見たよ」、「ラジオ、聴いたよ」、「新聞に出ていたよ」みたいにお客さんに言ってもらえて情報発信も皆さんに助けていただいた部分です。

あと、アイスクリームがおいしいよねと言ってもらえたら、目掛けて来てもらえるんじゃないかなと、いろいろなアイスクリームを食べ歩いて、やはり一番これかなというところで視察に行った兵庫県のファーム67のソフトクリームを参考にさせていただいて、それをやっているのですが、このブルーベリーソースは、支配人が自分で育てたブルーベリーを自分で調合して、皆さんに「これはおいしいね」と食べてもらいたいという思いを込めて商品にしたものです。

実際に88のアイデアがあったのですが、今達成できているのが50個です。これからまだまだ私たちが見逃している資源がもっともっとあると思うので、それをしっかりフル活用して、元気が出るような、経済もうまく回していきたいですし、お客さんにどんどん来

比田の恵みを詰め込んだ商品の開発

⑧比田産大麦 丸粒麦茶
比田産の大麦を使ったオリジナル麦茶
2023年 販売開始

⑨柚子紅茶
比田産の柚子を使ったこだわりのオリジナル紅茶
2023年 販売開始

⑩いちご紅茶
比田産の柚子を使ったこだわりのオリジナル紅茶
2024年 販売開始

- 50 -

オリジナルカフェメニュー

①クレープ
比田産の米粉と小麦粉を使ったもちもちのオリジナルクレープ

②玄米甘酒チーズケーキ
情報科学高等学校との共同開発商品。夏季の販売はお休み

③オリジナルソフトクリーム
比田産のうまみを活かした人気のソフトクリーム

比田産ブルーベリー使用
ブルーベリー

比田産小麦と玄米ボン菓子使用
恵のサンデー

手作りおもちとあずき汁使用
ぜんざい

- 51 -

でもらって、今働いてもらっている人も安定して働いてもらえたり、実は野尻のように子育てをしながら、若いお母さんが一緒に安心して働けるような場になりたいなとい

う思いがあるのです。若い方だけではなくて、先輩の方たちも生きがいとして関わってもらえる。移動販売のスタッフさんもそうですし、カフェのお姉さんたちもそうですが、安心して、心豊かに暮らせるように頑張っていけたらなと思っています。前向きに協力してくださる仲間を増

やしていきたいなというのと、自分たちの子どももそうですが、次世代の方と一緒に活動しながら、持続可能な地域づくりを目指したいと思っています。私たちがこうやって活動する中で、本当に毎日失敗ばかりですが、メンバーの得意なところ、私はこうやって話すのが大好きなので、

視察とかにも来ていただいて、自分たちの苦労話をいろいろ聞いていただく中で、応援するよ、お酒買って帰るよと言ってもらえることが、自分が一番得意として頑張ろうかなと思っている部分です。

地域ビジョンの取組達成状況 地域魅力			
生活環境	産業振興	定住促進	
1 地域のリーダー人材育成	16 オール比田の産業法人	42 比田のホームページ開設	76 比田版ハローワーク
2 知識・技術身につく！地域の達人スクール	17 中山間直売交付金の一本化	43 えへひだUNEスタンプ	77 住宅と農地のパッケージ住宅
3 比田農産物で食育	18 味噌蔵のり除	44 みんなの車やトラックに比田PRステッカー	78 シェアハウス
4 楽しく学べる比田寺子屋	19 新作物産地の再生・管理	45 飛ばそう！こどものPR手紙入り風船	79 比田版空き家バンク
5 一人暮らし・お年寄りの見守り、お助けネットワーク	20 比田米の基準づくりと管理記録	46 比田PRアイドルチーム	80 おじいちゃんおばあちゃんの子育てサポーター
6 お年寄り向け配食サービス	21 小さな農家さんの野菜直売・出売	47 ポスターコンテスト	81 子育てサークル
7 診療所の設置	22 山菜や薬草を栽培	48 ホタル・オオサンショウウオの里	82 地域から出産おめでとう祝い
8 地域運営の葬儀屋	23 比田米の基準で日本産づくり	49 シバザクラの里	83 行事・イベントの集約
9 全体防災訓練	24 木粉加工品の開発促進	50 春夏秋冬の絶景ポイント発見	84 楽しく遊べる公園
10 通学路の安全マップづくり	25 比田産小麦でパンを！	51 銀座山展望台	85 郷土料理教室
11 週末限定の夜間路線バス	26 比田産もちの解凍拡大	52 蓮花池にイルミネーション	86 比田女子会結成！
12 通学・通院や買い物サポートのデマンドバス	27 比田産そばPR	53 オール比田の観光案内板設置	87 男みがり塾で婚活応援
13 いきいき市場の充実	28 コンニャクづくりの拡大	54 サフランやラベンダーの花畑	88 コミュニティカフェ
14 朝市・フリーマーケット	29 畜産を基幹とした牧場観光	55 比田産ハイキングコース	
15 比田ぐるり移動販売車	30 比田の知を味合う観光企画	56 自然を活かした森林浴テーマパーク	
第1期 H29.3.1～H29.12.31	31 畜産オーナー制度	57 比田の四季体験イベント	
第2期 H30.1.1～H30.12.31	32 自然栽培体験	58 農産物試食ツアー	19 * 14 * 4
第3期 H31.1.1～R1.12.31	33 キノコ狩りもできるキノコ園	59 比田の湯かき水	* 3 * 0 * 4
第4期 R2.1.1～R2.12.31	34 竹・木材加工	60 メロディーロード	* 3 * 3
第5期 R3.1.1～R3.12.31	35 比田の湯水や特産品づくり	61 比田比べ	
第6期 R4.1.1～R4.12.31	36 いきいき加工部の継承・継産	62 ハロウィン祭り	
第7期 R5.1.1～R5.3.31	37 ショップ	63 ガサトフェスティバル	
第8期 R5.4.1～R6.3.31	38 比田産品ブランド化	64 お迎え・おもてなしの雪国気づくり	
	39 農村レストラン	65 道の駅化でみんな立ち寄りやすい市場	
	40 比田うまいものグランプリ	66 農家民泊・市民家民泊	
	41 暮らしと食文化	67 スポーツ合宿の誘致	
		68 郵政の子ども達との交流の場	
		69 全国比田サポーター	
		70 金屋神社サミット開催	
		71 伝統文化・年中行事の保存・継承	
		72 地区外で比田誇りをPR	
		73 花田植来場者2000人！	
		74 龍龍神社のPR	
		75 比田検定	

地域ビジョンの実現に向けた中長期的な目標

- 比田の地域資源をフル活用し産業を活性化させ、地域内の経済循環と外貨獲得により雇用を創出する。
- 子育て、高齢者支援の事業により、地域の皆さんが安心して心豊かに暮らせるよう貢献する。
- 前向きに協力してくれる仲間を増やしながら、次世代の担い手育成を行い、持続可能な地域づくりを目指す。

地域づくりのポイント

- ・種をまき続ける。(未来志向)
- ・失敗を恐れず挑戦し続ける。(前向き)
- ・メンバーの得意分野を活かす。(強み)
- ・できる範囲で。(持続性)
- ・やりたいからやる。(主体性)
- ・楽しそうにしているところに、人は集まる
(足を引っ張るのではなく手を引っ張る)

いろいろ本当に大変ですが、できる範囲で頑張ろう、長続き、マラソンしようねというところと、あと、やりたいからやっている。こうやって楽しそうにやっていると、どんどんみんなが寄ってきてくれるんじゃないかなというところがあります。

最後ですが、最初に成功事例ということで、ビジョンができたときに交流館の前でみんなにお披露目をしました。野尻もあんなに初々しい若い感じですが、このときに、3月28日だったと思うのですが、冬休みの日でしたが、保育園の子どもたちと小学生の子ども



たちにも来ていただいて、「飛ばそう！ こどものPR手紙入り風船」ということで紙風船を飛ばしました。本当に風の強い、まだちょっと肌寒い日だったのですが、向こうの山の本にいっぱいぶつかってしまって、「これ、飛んで行くの」と思ったのですが、福井県のあわら市の方から「風船、届いたよ」とメールをいただきました。本当にすごいなと思って、子ども園にも、小学校にも、そのお話をしに行って、今回、アクションプランが88あったのですが、一番最初に成功した事例ということで皆さんに紹介したいなと思いました。

今日は本当にありがとうございました。（拍手）

○司会 田邊様、野尻様、ありがとうございました。ここまで2件のご報告に何かとご質問などあろうかと思いますが、後ほどパネルディスカッションの中で会場から参加いただく時間もございますので、その中でお願いいたします。ここで休憩といたします。14時5分に再開したいと思いますので、よろしくお願いします。休憩中に農水省からビデオを流したいということです。

（ 休 憩 ）

○司会 それでは再開いたします。これからはパネルディスカッションでございます。進行はコーディネーターとして市田主査をお願いいたします。

【パネルディスカッション】

コーディネーター 農林水産祭中央審査委員会むらづくり分科会主査 市田 知子

では、パネルディスカッションを始めます。

まず、意見交換に入る前にパネリストの皆様を紹介させていただきます。早速ですが、私に近いほうから、先ほど発表いただきましたえーひだカンパニー株式会社の田邊取締役です。続きまして野尻取締役です。次に、農林水産祭中央審査委員会むらづくり分科会の委員を務めていらっしゃるNHK財団専門委員、元NHKアナウンサーの畠山智之委員です。それから先ほどご挨拶いただきました安来市長の田中武夫様です。最後になりましたが、島根大学学術研究院農生命科学系准教授の保永展利様です。よろしくお願いします。

それではこれからパネルディスカッションに入ります。まずおひとかたずつ、先ほど田邊様と野尻様にいただきました業績発表に対して、ごく簡単に結構ですので、感想、それからご質問を受けたいと思います。では、田中市長からよろしくお願いします。

○田中（コメンテーター） 私から質問はございませんで、全て今までの行程を大体わかっておりますが、この地域は、特に今日説明がありましたように、今ここにあります市街地、平地としますと、本当に車で約1時間近くかかる中山間の場所でありまして、皆さん方、農業が主体ですので、農業と地域の農家ということで、説明があったような取組がなされました。安来市というのは、平場はほとんどが水稻地域でした。水稻は簡単に言ってしまうと、春、作付けをして、秋に収穫すれば、あとは、言ってみれば、農閑期に当たる部分が多いわけです。なぜそういったことを言うかといいますと、余りほかの農産物を作ろうとしませんでしたのは、日立金属がありますので、製鉄業で栄えたところでありましたので、農業は簡単に終わって、すぐに勤めに出る、そういった地域でありました。ですから、中山間の方も基本はそうです。しかしながら、段々と、雇用を維持していかないということやってこられたと思っています。そういうことで、皆さん方の注目を浴びたと思っています。

以上です。

○市田（コーディネーター） ありがとうございます。それでは、続きまして、保永先生から一言お願いします。

○保永（コメンテーター） 私も比田カンパニーに参加させていただいて6年ぐらいですかね。結構、学生を連れて行って参加させていただいておりますので、最初の頃からの取

組は大体理解しております。大学で地域経済学を教えているのですが、地域産業は、域内市場産業と域外市場産業と分けるのが一般的です。域内市場産業というのは地域の中の人の需要に対応する、そういった産業で、域外市場産業というのは地域の外の需要に応じていく産業というのがあるんですが、この比田カンパニーは地域の中に応えていこうとするのと、地域の外の需要に応じていこうとするものを、うまく機能させながら経営しているところが特徴で、そういった中で、地域の中で循環を作っていこうとしているのだなというのがすごく感想として持っています。それが生産機能とか、自治機能ということにあらわれてきているのかなと思います。

あと、比田村という村単位でまとまっている、そういった一つのいい例なのかなと思っています。比田村というのは山間部の村だったわけですが、山間部とは言っても閉鎖的ではないといえますか、昔からそうですが、村を維持していくためには外から人を入れてきて、婚姻関係とかを結んで維持していかなければならないわけですね。私もヒアリングとかに行きましたが、昔から大阪の人とかを受け入れながら運営していたという話も聞いていますし、そういう異質な人を受け入れて、うまく地域の自治を行なっていこうとする社会的素地というのが昔からあったのではないかなと思っています。そういった中で、若い人にもっと活躍してもらおうとか、そういったところの取組も意識的にやったのではないかな、結構昔からあったのではないかなと。私も島根大学に勤めて（島根県内の農村調査をして）15年ぐらいになりますが、そういう山間部の維持の仕方というのがあったのではないかなと思っています。

以上です。

○市田（コーディネーター） どうもありがとうございました。それでは、同じくパネリストの畠山委員、よろしくお願いいたします。

○畠山（コメンテーター） 私はむらづくりの優れた選考に5年ほど携わっているのですが、それまで回ってきた地域とえーひだは全然違った部分が1点だけありました。それは何かというと、「生き生きしたむらづくり」とよく言いますよね。その生き生きという意味が何なのかということをこのえーひだが教えてくれたような感じがしたのですね。というのは、これまで回ってきたところの生き生きというのは、大体が町の中に何か大きな産業をつくって、他企業のお金を持ってこようとか、あるいはつくった名産品を外に大量に売って資金を得て生き生きさせていく。それが町の活性化だというところが多かった。それはもちろんいいのです。ところが、えーひだの方はそこまでしていないのですよ。こう

という言い方をしたら失礼かもしれないが、すごく身の丈なんですよね。背伸びをしない。でも、みんな生き生きして、自分ができることはそれぞれのことをやっている。輝いているのです。日本のこれからを考えていくと、生き生きとしたむらづくりというのは、外資を導入する、あるいは外貨を導入してどんどん大きくなっていくのもいいかもしれませんが、そうではない部分に、何か暮らしたくなるような光がある、これが新しいむらづくりの原点かなということを教えてくれたのはえーひだでした。

以上です。

○市田（コーディネーター） どうもありがとうございました。お三方から、主に本日のご発表に対する感想が述べられましたが、それに対して野尻さんと田邊さんからお話を伺いたいと思います。合わせまして、今回の受賞後の変化、地域の他の人たちへの影響などがありましたら、お話しいただければありがたいです。よろしくお願いします。

○野尻（業績発表者） まず両陛下への拝謁の感想を述べさせていただきますと、当日は弊社の代表取締役の川上と総務部長が代表して行かせていただいたので、私たちは実際に行っていないですが、感想を聞くに、やはり天皇杯を受賞して両陛下にお会いする機会をいただけるということは想像していなかったことで、本当に身に余る光栄だったということです。陛下から直接、地域に貢献していることに対しての労いの言葉をいただいたそうで、本当に活動が続けてきてよかったし、今後も頑張っていこうという決意を新たにしたいという感想を聞きました。そして、地元の変化についてですが、私たちもびっくりしたのですが、地域の方たちも正直驚いている様子でした。地域の方たちの中でも、私たちスタッフとか、メンバーの家族は、やはりいただいたことでこれまでの頑張りが報われたことに本当にうれしさいっぱいですし、あと、また地域の方が有志で祝う会というのを結成していただきまして、今度の23日に比田の地域で祝賀会を開催していただくことになりまして、その場で本当に改めて地域の皆様と、支えていただいている関係機関の皆様に感謝を伝えられたらいいなと考えております。

○田邊（業績発表者） 比田地域に関して、先ほど保永先生がお話ししていただいたとおり、やはり私たちの親世代、もっと上の世代の方から、地域外から来てくださる方の受け入れというのは素地がありまして、地域おこし協力隊とか、そういう言葉がないときから、今で言う I ターンの方を受け入れして、農業を教えたり、野菜作りを教えたり、そういう受け入れがあったなと今思い出したところです。畠山先生から言われたとおり、本当に私たち、商品を作ることもできないですし、売ることもできない、まだまだ弱小で、視察に

来られると、もっとこうしたらいいのにと、逆に教えてもらうことのほうが多いです。でも、その中で、私たち、本当に失敗ばかり、とんちんかんなことが多いのですが、そんな私たちのおとぼけを気に入ってくださって、来てくださる方、そういう人たちにちょっとでも楽しいところだ、また会いたいなと思ってもらえることが自分たちにとっては一番大事にしていることかなと、今つくづく思いました。

○市田（コーディネーター） ありがとうございます。いろいろ変化があったということで、祝賀会も予定されているということで、大変盛り上がっている様子がわかりました。

それでは、これから論点を「これからのむらづくり」に絞って会場の皆様も含めて一緒に考えていきたいと思います。幾つか、さらに項目を用意してあるのですが、まずは若い人の参加ということで、すでにお話もあったところですが、その次にえーひだカンパニーという株式会社にした、最後に、日本全体の問題ですが、人口減少社会におけるむらづくりということで、欲張っていますが、三つのポイントに沿って話をしていきたいと思います。

最初に若い人の参加。若い人というのも、中学生以上も最初の話し合いに参加したという話がありましたが、そのあたりから、パネリストの方も含めていろいろと話を伺いたいと思います。まず、市長から。行政の視点、市長の立場から、こういった中学生も参加するビジョンづくりについて何か印象をお持ちであれば、お話しいただければと思います。

○田中（コメンテーター） この地域は、昔から、最初に申し上げましたように、旧市内から非常に遠いところにありまして、そこだけで独自の文化といいますか、そういったものが醸成されてきたというふうに私は思っておりまして、特に皆さん方がこのままではいけないという意識が非常に強くて、それを老若男女問わず思っておられたと思います。そして、今全体、合併20年になりますが、小中学校の適正配置という名前の統廃合を今行なっております。しかし、比田地域だけは余りにも遠く、そこだけは残すという決断をいたしております。ですから、それだけ中心地から離れておって、そこだけ独自の文化を形成されていると思っていますので、その中でそういった子どもさんから大人の方まで努力していただいております。また、今日も発表の中にありましたが、公務員がたくさんおりまして、安来市の職員もたくさんおります。特に農林振興課にこういったことに長けた職員がおりまして、その職員が組織づくりとか、組織の運営を非常にやっております。昔から言われている今後の農業は、私は現在大分高齢ですが、若いころに言われたのは、今後の農業は公務員と農協職員でやるべきだと。それはなぜかということ、収入が確保して

いなかったら農業は続かないということのあらわれでした。ですから、今日安心しました。ここは製鉄の町ですので、別の文化があって、相当な高収入の職場があります。その職場に通っておられる方、そしてまた公務員、また職員というきちんとした、もともとの家庭の収入が安定した方々が基本にあるからこそ、その子どもさんといえますか、若い方もこういうことに参加できたのではないかというふうに思っております。

○市田（コーディネーター） どうもありがとうございました。製鉄というと、かなり昔の話のように思ってしまうのですが、いまだに製鉄の中心地だったことの影響があると理解してよろしいのでしょうか。ありがとうございます。

では、続きまして、保永先生、若い人の参加についてよろしくお願いします。

○保永（コメンテーター） えーひだカンパニーで言うと、かなり若い世代から地域学的な教育をやられて、そういった点はすごくすばらしい点なのかなと思っております。私も大学に関わっているのですが、大学生ということになると、また難しい問題がありますが、いま、大学1、2年生ぐらいだと、高校生と同じぐらいなので、なかなか農業とか、農村に対する知識もそれほどなかったりしますし、そもそも田んぼに入ったことがない学生も結構います。そうすると、そういった人たち（学生）が最初から地域に入るとなると、（地域住民と）話せるのだろうかというのがあって、そういうハードルがまずあるというところですかね。興味はあるかもしれませんが、そういうハードルはちょっとあるというところですね。あとは、地域側の期待が大きくなり過ぎてきているかなというのがあるかなと思います。人手が不足してきていますので、若者に何か期待する期待度が高まり過ぎていくところがある。そうすると、地域側は期待しているのだが、若者は何もできないよとなってしまっていて、参加しづらいということが起こってきていて、その中で、地域側はできれば密な交流をしたいんだが、若者はそこまで密に最初からできないということがある。大学教育でもフィールドワークに行くのですが、日帰りとお泊り二日のどちらを選択するかといったら、日帰りのほうを選択する学生が多くなってきているというのもあります。その辺のやり方、関心はあるかもしれないですが、そのやり方というのをもうちょっといろいろ工夫しながらやっていかなければいけないのかなというのが正直なところですよ。

○市田（コーディネーター） どうもありがとうございます。保永先生、農学部なので実習の機会があるのではないですか。

○保永（コメンテーター） 実習ではよく行きます。農業体験とか、フィールドワークもありますし、農村社会のことを学ぶというのは当然やります。ただ、そこに来ている学生

はそこまで地域農業や農村社会に詳しくなかったりもしますので、学生の質も変わってきているというのはあるかもしれません。

○市田（コーディネーター）　ありがとうございます。では、畠山委員。

○畠山（コメンテーター）　若者の参加ということでよろしいですか。一番感心をしたのは、「えっ、こんな若い人をそこまで使っているの」という使い方をします、このえーひだの人達は。というのは、今日の会場の入り口に日本酒が2本置いてありましたよね。そのラベルに「たたら風」と「たたら舞」という文字が書いてありました。書いたのは大学を出た女性なんです。銀行にお勤めで、安来がふるさとでしたかね。たまたま習字がうまいということが皆さんに知られていた。それを知っていた人が「だったら、君、ラベルを書いてよ」と書かせてしまったらしいのです。これから売っていこうというブランド米のお酒ですよ。そのラベルを大学出た二十何歳の子が書くのです。これは受けたほうはすごくうれしいですね。「えっ、私、そこまでやっているの」という気持ちになりますよね。彼女は、視察の時に配られた資料に「関わりしろ」という言葉を書いていました。自分が村に関わっていただけるのだという気持ちがすごくうれしかったと書いてあったのです。そういう気持ちを抱かせること自体が若者をうまく有機的に使っていくことのベースになっていると思うのです。もともと昔ながらのお祭りなどにも、ちいちゃな子どもたちを自主的に参加させて屋台などを経営させてしまうところからやっている。そうすると、自分たちが、村の中の何が特産品で、幾らぐらいで売れるのかということちゃんと考えていって、その仕事に自分が関わったということを感じてくれる。それによってふるさとという部分が心の中に生まれてくる。そういうものをずっと積み重ねていったのがこのえーひだの若い人たちの使い方じゃないかなというふうに思いました。

○市田（コーディネーター）　どうもありがとうございます。今のコメントに対して、お二方どちらでもいいので、舞台裏のようなお話をいただければありがたいです。

○野尻（業績発表者）　田邊さんが引っ張っていくというか、頼み込むのがすごく上手で、習字の彼女も、多分、声をかけたのは田邊さんかなと思うのです。そういった形で、最初からのお話にあったように、やはり比田は農業が主産業ですが、うちの会社も実際には人手不足で、会社ももう8年ぐらいになるので、最初から農業に関わってくださっていた方もどんどん高齢化していったら、今後いろいろな方の手を借りていかなければいけないので、そういった若い世代の方々がもっと農業にも入りやすくするように、最初の一步が難

しいというお話もあったと思うのですが、地域おこし協力隊みたいな制度を使ったりとか、あとは、これから私たちも増やしていきたいと思っているのですが、もうちょっと地元の大学との関わりとか、そういったことで、地域に入りやすくして、何かきっかけをつかんでいただいて、その後、なかなかそこに定住するのはむずかしいですが、関係人口という方で関わっていただければ、人手不足の解消にもなるかもしれないですし、そういったことで地域に今おられる方たちが、そういう外から入ってくださる方が増えていくと、活力もどんどん湧いてくると思うので、そういったことをこれからもっとどんどん進めていかないと、私たちが今やっている事業も継続がなかなか難しいかなというのが本当にこれからの課題でありますので、そういった関わりしろがあることはうれしいと思ってくださる方たちをもっと増やしていくために、こういった形でまずつながりを持っていけばいいかということは考えていくべきだなと思っています。

○市田（コーディネーター） 田邊さん、いかがでしょうか。

○田邊（業績発表者） ありがとうございます。こればかりは本当につながりがすごくありがたいですね。私も「〇〇ちゃんはあることが得意だな」と知っていることもあるのですが、私のお友達だったり、また知り合いだったり、「〇〇さんは写真がもっと上手だよ」とか、そういう人をつなげてくださったりということで、本当につながりがありがたいと思います。あと、若い人の参加のところですが、ドローンのオペレーターもお父さんと息子君みたいな感じで2世代で関わってくれることで、比較的みんなが関わりやすい、自分の得意な分野というのがうちの特徴かなと思います。

○市田（コーディネーター） どうもありがとうございます。先ほどのパネリストの方のお話で気になったのは、地元の大学生が余り農村に関心がない人もいるということです。私自身も農学部で教員ですが、大学は都市にあるのですが、農村はわざわざ出かける場所であり、その点、近くに農村のある大学はいいなと思うのですが、島根大の学生はなぜ農村に関心がないのでしょうか。学生の質が変わったというお話もありましたが。

○保永（コメンテーター） なぜというか、9割ぐらいは県外から来ていることもありま
すし、もともと都市（市街部のほう）に住んでいた人が多いのもあるでしょうし、あとは、やはりえーひだカンパニーまで島根大学から1時間ぐらいで行けるので、行きやすい距離ではあると思うのですが、そこまで誰が連れていくのかという問題がどうしても残ってしまふところがある。ほかのところ（島根県内の農村地域）もそうですが、電車がいないところが多いのですね。鉄道がないというか、山間部になればなるほど鉄道がないので、そこ

までどうやって連れていくのかというところで、なかなか難しい部分があるのかなと。関心がないわけではないと思うのですが、最初の一步が難しいのかなと思っています。

○市田（コーディネーター） どうもありがとうございます。地元の若い人と地元外の若い人のつながりは何か工夫してつなげる努力をされていますか。えーひだカンパニーのお二人にお尋ねします。

○田邊（業績発表者） 実は九州大学の教授の方が安来市の出身で、比田のカンパニーが頑張っている、インターンシップの受け入れはどうかということで、九州大学から過去4人ぐらい来ていただいているのですよ。1人の男の子は島根が気に入って、島根に就職してくださって、何かイベントがあると応援に来てくださって、今でもつながりがありますし、最初に来た女の子も遊びに来てくれたり、フェイスブックとかでつながったり、あと、元々はお父さんが比田中学校の先生だったのですが、その子が何年か比田に勤めて、その子もずっとつながってくれているとか、九州大学から来た4番目の女の子ですが、「今度、5月5日には必ず遊びに行きます」と、この間も湯田山荘に予約を入れてくれたりして、インターンシップで来て、滞在期間が長い子は3か月、短い子は2週間ぐらいですが、そういったところで比田に来てくれて、本当に比田のことが大好きになってくれて、何かしらに足を運んでくれる。島大からも農業系で1人受け入れて、彼は島根県の職員になっておられたり。その後はなかなか会う機会はないのですが、そうやってよそから勉強に来られた方も、その後も連携を取りながら、つながりを持ちながらというのはすごく大事にしています。

○市田（コーディネーター） どうもありがとうございました。次の「むらづくりにおけるえーひだカンパニーの株式会社化」に移ります。まず田邊さんにお尋ねします。株式会社化について当初、考えていたメリット、デメリットはどのようなものだったのでしょうか。そして、今現在はどうでしょうか。

○田邊（業績発表者） 今現在、メリットとしては、皆さんに会社だからというところでちゃんと認めていただけてお付き合いをしていただけるということで、選択してよかったなという部分ですし、成功すれば、成功した分だけ経済を回していけるというか、自信を持って前に進んで行けるということはあるのですが、去年みたいに300万円も赤字が出ると、本当に経営は大変だなというのがあって、私たち3人が正社員として、あと、パートの職員と一生懸命頑張っているのですが、幾ら総務がきちっと計画を立ててくれても、なかなかそのとおりには物事が進まない部分もあったり、実際、取締役という部分でも、

じゃ、誰にそれをお願いするのかというので、みんなは会社で認められないみたいな感じで兼業とか、副業はだめみたいなのところがあって、そういう制度的にアウトなところがあるので、私たち、お金儲けをしようと思った会社ではなくて、地域を幸せにするための会社なのに、そこら辺を優遇してもらえるような、本当に税金も包み隠さず頑張って納めているのですが、その辺もなかなか、本当に身の丈に合っているのか、合っていないのかというところもあったり、そこら辺が苦勞している部分です。

○野尻（業績発表者） やはり地域づくりをしている株式会社というのが本当に珍しいということで、そこら辺が一番最初に注目していただいて、視察に来ていただいたり、講演に行かせていただいたりということが増えているというか、そういうところから注目していただけるということで、それは思ってもみていないメリットの一つだったかなと思います。

○市田（コーディネーター） どうもありがとうございます。一般社団法人にしているという事例は存じ上げているのですが、株式会社については、市長を初め、お三方にぜひうかがいたいと思います。安来市長、田中さん、農業関係、あるいは農村関係でこれから、安来市初め、島根県近辺でこういうふうに株式会社化していく所が他にも出てくるとか、すでに出ているとか、そういう情報がもしありましたら、教えていただきたいと思います。

○田中（コメンテーター） 安来市としては、こういうことはもうほとんどこれからはないと思います。今私どもは圃場整備をやっておりまして、集落営農法人をつくっております。株式会社化しようというところも今新しく出てきましたが、それは農業だけではなくて、さまざまな展開をするために、大規模な、今200ヘクタールほどの圃場整備の中で集落営農法人はたくさんあるのですが、今度、株式会社化ということを目指しておりますが、それは相当機運が醸成しないと株式会社にしても恐らくはだめだということをみんな判断しているようでして、このえーひだカンパニーさんも、島根大学の先生が言われたことは、卵から一挙に成鳥にするのではなくて、そのこのところ、卵からかえって、すぐに歩くわけではないので、その先生は中山間に特化していろいろな学校などのことをやってもらっていますが、もうちょっとやっていって、機運が醸成してからが良かったのではないかという感想も聞きました。株式会社というのは、私も小さい商売をしていましたが、商売、利益を追求するのが株式会社の一つの目的ですので、今頑張っているんですが、次に出るということは恐らくないと思っています。

○市田（コーディネーター） ありがとうございます。地域の団体の株式会社化について

教えていただけますでしょうか。

○保永（コメンテーター） カンパニーはコンパーニャといいますか、そこからの由来で、一緒にご飯を食べる仲間といいますか、そういったことを意味しているわけですが、同じ釜の飯を食う仲間ということに日本ではなと思うのです。仲間同士でプロジェクトを実施するのですが、プロジェクトを継続的に実施するために小口で資金を集めるというところ、そこが由来といいますか、元々あるわけです。まちづくりをやろうと思ったら、どうしても攻めと守りの両方が必要になってくるというところですかね。ですから、どうしても事業規模が大きくなってしまいますので、そこで任意組織だとどうしても難しいところがあるといいますか、そういうことで、やはりある程度の事業規模で地域の循環を作っていくという観点からすると、株式会社という形態はある程度意味があるのかなと思っています。私も中山間のコミュニティビジネスでいろいろ回っていますが、たとえば、長野県の小川の庄とか、小布施のまちづくり会社とか、和歌山県の秋津野ガルデンとか、いろいろ行きましたが、そういう人たちも株式会社という形態を取ってやっています。規模が少し大きくなっていますが、その中で経済を循環させていくという目的で取り組んでいくということになってくるのかなと。そういう意味では意義があるのかなと思います。

○市田（コーディネーター） 先生が先ほど最初のご発言でおっしゃっていた域内需要と域外需要、その両立ということとも関連するのでしょうか。

○保永（コメンテーター） そうですね。域内の人たちのニーズを満たすということと、そのためにも外の需要をうまく取り込んでいって経済を回していくために事業規模はある程度大きくしていけないといけないですし、任意組織という形態では難しい。ある程度の規模があって、法人化していったほうがいいメリットはあるかなと思います。

○市田（コーディネーター） 畠山さん、お願いします。

○畠山（コメンテーター） 経営自体に株式会社化がいいかどうかについての論点はよくわからないのですが、ただ、株式会社化した原点がすごく大切だなと思いました。町がつぶれていってしまうのではないかと。そのときに自治会が、今後のむらづくりを考えていく方法もあるのだけれど、自治会という組織だと、加入している家のトップが亡くなると、そこから抜けてしまう。それでは自治会の組織がだんだん弱まってしまいうから株式会社化したと、おっしゃっていました。これによって地域の人たちそれぞれが責任を持って、おれの町を守るのだという意識が生まれている。これはすごくいいなと思ったのが1点。

株式会社化したことによって、得た利益を還元するということもしていましたよね。商

品券みたいなもの、クーポン券みたいなものを配って。優待券をちゃんと地元に戻すことによって、地域の中で何が動いているのかということが他の人たちもみんなわかるような仕組みになっている。これは株式会社という組織にしたことによって、みんなの目で見られる、確認できる組織になっているのではないかなというところ、僕はそこにメリットを感じました。

○市田（コーディネーター） ありがとうございます。えーひだカンパニーのお二方、それぞれ、今のパネリストの意見を踏まえてでも結構ですし、これからは株式会社を当面はずっと続けていかれると思うのですが、気づいた点がもしおありでしたらお願いします。

○野尻（業績発表者） やはり地域ビジョンも、今日も、明日も、10年後もずっと「えーひだ」と呼べる地域でありたいという願いがあって、10年後、さらには20年後、その先のことも考えられるという思いがあるので、そういう意味では世代をつないで、今40～50代の方が主なメンバーですが、その方たちも年を重ねていくので、今20代の方とかにも入ってはもらっているのですが、どんどん若い方に中に入ってもらって活動に参加してもらって、興味を持ってもらって、えーひだカンパニーで一緒にやってもいいかなという思いを持ってもらえると、うちの会社もずっと続いていけるのかなと思います。株式会社として本当は優待券とかもあるのですが、うちは利益がどうしても少ないので、今は優待券も本当に少しなので、余り地域に、株主さんにも還元がまだ少ししかできていないのですが、今後はもっと還元できるように。優待券という形になったものだけではなくて、地域に人を呼んでいって、商店とかに販賣を持たすとか、見えないところでも還元をもっともっていき、地域の人たちに喜んでもらえるような組織に今後もっとしていきたいなと思っています。

○田邊（業績発表者） 株主総会で、株主さんからのするどい指摘もあって、やはり「あれこれをやり過ぎていて、カンパニーは一体何をやりたいのかわからない」というご指摘がありました。300万の赤字に関してもすごく心配感があるというご指摘がありました。その中で、今事業の種を蒔き過ぎたということも本当のところなので、しっかり事業を見直し整理をして、経済をきちっと回していくことが大事だということで、社長もしっかり利益を出して、本当の意味で地域に還元というか、社会貢献、福祉事業にしっかりお金を自信を持って回せるようにしていかないと、カンパニーはこのまま続いていかないんじゃないかということをすごく言っているのです。なので、もっともっとしっかり、利益が出るような事業をやっていかないといけないなと強く思っていて、一つ一つの事業を見直

すことと、ちゃんと利益を出した上で地域貢献を頑張りたいなという思いです。

○市田（コーディネーター） どうもありがとうございました。結構、現実には厳しいというお話でした。お手元に資料があると思うのですが、最後から2枚目に「地域ビジョンの取組達成状況」という表があります。当初掲げられた88項目の事業、そのうち、はなまるが付いている50が達成したということで提示されています。この達成状況の表は発表のために作られたと思いますが、もし活用するとすれば、たとえば、まだ白になっている項目のうちどれを優先的にやるというようなことは考えられていますでしょうか。それから、88項目は10年前に選んだ項目なので、それを見直す、先ほど見直す動きもあるのでしょうか。興味がありますのでお聞かせいただければと思います。

○田邊（業績発表者） まずこの一つ一つの項目が、私たちが最初に、定住促進部であったり、地域魅力部であったり、生活環境部であったり、総務部であったり、比田米プロジェクト部であったりというところでみんなぶら下がっていたのですよ。全部分けて、私たち定住促進部はこの中から何をやるのかというところで、部員で話し合っ、これならできそうだね、じゃ、これを実現するためにこんなことをやろうねみたいな感じで、最初に一つ一つつぶしていく作業をやってみました。今7年、8年やる中では、そうではなくて、今こうやって小さな拠点づくりのモデル地区というところで、多機能拠点施設、市場のリニューアルオープンみたいなところが始まったり、移動販売が始まったりする中で、私たちが向かっていたのはこういうことだったねみたいな、じゃ、これは一応達成かなというところで、やっていることがこれに付随したなというところで整理することのほうが、ここのところ、2～3年続いていました。これは本当に10年前に四つの領域をバランスよく入れて総合的にというところで88のアイデアを集約したのですが、これからどんなふうにビジョンを見直していくか、どこが事務局となって、そのことをやっていくのかを、これからは地域の皆さんと一緒に相談しながら次のステップを考えたいねということを執行部のほうでは話をしている段階です。

○市田（コーディネーター） どうもありがとうございます。今のことと関連づけますと、先ほど来、話題に挙がっております88のアイデアが10年を経過する中で、ところどころ変化してきた、あるいは実際にその事業を行なう中で変わってきたというお話がありました。現在、地域の人口は900人弱となり、お年寄りが割合的にも増えてきています。今後の優先順位、事業のスクラップ・ビルド、見直しについて、何かお考えでしょうか。続いてパネリストのお三方にもお尋ねしたいと思います。人口は今900人弱でまだ減少すると推測

されます。若い人も呼び寄せることを続けていくとしても全体としては規模が小さくなるかもしれない中で、何を優先していくのか。もちろんこれまで行ってきたことを続けるということでも構いません。

○野尻（業績発表者） 人口減少で、関係人口とかを増やしていきたいとは思ってはいるのですが、どうしても移住者の方が多少増えたにせよ、やはり人口はどうしても絶対減少していくものなので、弊社の事業でもそうですが、もうちょっとコンパクトに、少人数でもやれるように整理していかないといけないのはもちろんですし、私は元々地域外から来た人間で、こういった里山というか、中山間地は、近所の人とか、地域の方とのつながりが強いとは感じるのですが、その分、やることも結構たくさんあって、いろいろな会もたくさんあって、役員になられる方もたくさんいらっしゃるというのがすごく印象的にある。でも、昔のまま、それを下に下ろしていっても、人が少ない中でそれを皆さん兼任してやっておられたりというのが結構多く、私も大変だなと思っていて、実際、自分たちがこれからこの地域に住んでいくとどうなるかなと思うので、やはり地域としてももうちょっと少ない人数でやれるように、いろいろなものをコンパクトにスリム化して、似たような事業をやっている場合は一つにするとか、そういったことを住民としても意見というか、声を挙げられたらいいなと思っていること。

あとは、私個人的に思っているのは、子どもは地域の宝なのですが、今多種多様な社会になったので、いろいろな考えを持っている方とか、いろいろな暮らしをしている方、そういった方も幅広く受け入れ、住みやすいような、そういった入りやすい地域にしていけたらいいなと個人的には思っています。

○田邊（業績発表者） 私が一番優先させたいのは地域の皆さんの幸せ。子どももそうですし、高齢者の方もそうですし、みんなが楽しくて、幸せだと思える地域にするのが今の自分の優先順位です。今スタッフとも実は話をしていて、市場のお客さんが減っている。なぜならば、今まではシルバーカーを押してでも来ていたおばあちゃんたちが、一人一人、施設に入られたり、入院されたりで、それだけでも本当に減ってきているのですよね。移動販売もそうなのです。市場と事務所、普段は女性ばかりなので、私たちで、その中でどうしたらいいのだろうと、女性ならではのアイデアをそれなりに、毎日、いろいろな話をしながら、じゃ、あれをしてみるか、これをするかというところがあるのですよね。やはり大きなことはできないかもしれないのですが、もっともっと女性のアイデアを活かしながら、人口も減るかもしれないのですが、そこに何か突破口があるのではない

かなという方向性をつくっていききたいなと、まだ向こうは見えていないのですが、それが何か手段になるのではないかなと、自分はそこをやってみたいなと思っています。

○市田（コーディネーター） どうもありがとうございます。将来が楽しみです。注目していきたいと思いました。

では、田中市長からお願いします。地方の人口減少について、日頃、市政の中でお考えのこと、もしくは「えーひだ」に関連づけてお話しいただけますでしょうか。

○田中（コメンテーター） なかなか難しい問題で、人口減少は日本全国そうだと思います。我々が一つ考えられることは、まずは、申し上げましたが、やはり家庭の所得が安定しないと、この地域を守っていけないと思いますし、選んでもいただけないと思います。そういうことはあって、地域の振興のためにはやはり家庭の所得を上げるような産業を呼び込んだり、それから今あるものを発展させていくことが大事だということはあるわけですが、今日はえーひだの話ですので、比田につきましては、昔から生き生き加工部というものがございまして、ご婦人方を中心にして、餅をついて販売されたり、ちまき、この辺では笹まきと言いますが、笹を取ってきて、もち米はつくってありますので、それを数万本発送されたりしておられました。さまざまな食品をつくっておられて、ずっといろいろなイベントでやっておられたのが今の田邊さんのお母さんの世代です。そういうことから発展して地域を守ろうということをやっとおられました。今行政として向かわなければいけないということの中で、そういった作成されたりしたことが県のほうで認められて、小さな拠点づくりとして県からたくさんのお金がついて、今の施設も作られました。これは決して県が先に指定したから地元がやられたわけではなくて、地元の熱い熱意があって、島根県は中山間地が非常に多いわけですから、この地域として指定されて、今いろいろな施設ができました。移動販売車につきましても、その計画の中で購入されて、県のほうでやっておられます。

では、安来市は聞かれたときには、県がそういったことを頑張ったところには協力されますので、私どもが一番今やっていることの中で、まずは米が収入の大部分を占めると思いますので、今平場では1ヘクタールの圃場整備をしています、中山間の総合整備事業という国の取組の中で県を通じて我々もやっていただいております。今中山間の中で圃場整備をやっていますし、それから用排水設備の更新もどんどんやっています。そうやって米を生産する整備をやっております。

それからもう一つ、今温泉を活用していろいろなことをやっていただいておりますが、こ

の温泉も、本当は平場にある市の温泉施設の財団の経営でしたが、皆さん方の熱意があるので、分離して、皆さん方、どうですかという話がいろいろあったようでございまして、私のほうに届きましたので、あの施設、1億数千万円を使って市のほうでやりましたが、温泉施設を新しくリニューアルしました。その中で、中山間は奥深いところで、今も雪が降っていますが、独居老人が多いですので、冬季の一時居住施設を造ることも提案があって、それを施設整備しまして、今市としては市場の運営と温泉の運営の指定管理としてお手伝いするというをやっております。それらも全て地元からのこういうことをやりたいということを受けてやっておりますので、今後も頑張っていかなければいけないなと思っています。そういった昔のいきいき加工部といった活動の素地があったからこそ、今があると思っております、古い伝統といいますか、この地域を守ろうということは、今後も他のところが続いてほしいですが、なかなかままならないところもございしますので、われわれ行政としてはそういうことにも積極的にやっていこうと思っています。

今、地域内交通をやっていただいております、これは市のほうで購入した車両を提供しておりますが、中山間はここだけではなくて、もう1カ所にも提供しております、地元の方々が一生懸命自分でやるからということで提供しておりますので、今後もこういった活動が広く広まればよいなと思っています。

以上です。

○市田（コーディネーター） どうもありがとうございます。比田米はブランド化であると先ほどご紹介がありました。中山間で傾斜もあり、区画も狭いところでのコメ作りは、大変です。先ほどの市長の話のように整備されたり、ドローンを使っていくようにして、比田米というブランドをずっと続けていただきたいと思います。

では、保永先生、いかがでしょうか。

○保永（コメンテーター） 先ほどありましたが、株式会社、同じ理念を共有する仲間ですが、（地域社会では人が入れ替わっていくため）仲間が代わっていく可能性も当然あるといいますか、社会が変化していくと代わっていく可能性もある。そうすると、その理念も変わっていく可能性も当然出てくるということを考えると、ビジョン、たとえばある一定期間を過ぎた後にビジョンの見直しをすとか、そういったことも今後出てくるのかなというふうに思いました。

○市田（コーディネーター） ありがとうございます。大学がビジョンづくりなどに関わることはないですね。

○保永（コメンテーター） このえーひだカンパニーは、大学が関わらずに自分たちでやったということが一番すばらしいところではあると思うのですが、我々もこれまですごく緩いつながりで関わってきたので、この緩いつながりのままのほうがいいのか、またもう少しっとビジョンづくりまで踏み込んだほうがいいのか。もちろん秋津野ガルデンなどはビジョンづくりに大学が関わってやっているところはあるのですが、そうではなくて、地域の人たちが自分たちでやったところを尊重して、今のままのつながりでやっていくほうがいいのかは、これから私も考えていく必要があるのかなと思っています。

○市田（コーディネーター） 承知しました。それでは畠山さんお願いします。

○畠山（コメンテーター） 今日のこの会議はWEBで全国の方々がご覧になっていて、素人がこんなことを言うのかと怒られるかもしれませんが、僕が感じたことを素直に言います。僕が最初、このえーひだになぜ惚れたかと言うと、生き生きしたまちづくりの生き生きがこれまでとちょっと違う方向で生き生きしている。つまりお金をたくさん得られたからすごく生き生きしているのではなくて、ここに暮らしたいと思う気持ちがずうっと表れていて光があって生き生きしているところに僕は惚れたのですね。そういうまちづくりをこれから持続させていくために何か必要かと思ったら、補助金の出し方を考えたほうがいいと思う。つまりこれまでの補助金というのは、市長もおっしゃったように、これから何が必要だということを考えて、一生懸命考えた上で、国や県などが一つの補助金の枠をつくります。これが何を引き起こすかと言いますと、その補助金を得なきゃいけない場合、自分の事業を補助金に合わせなければいけなくなってしまう。となると、結果的に生き生きしていたものがだんだん光を失ってしまうのではないかという気がするのです。これまでの補助金の出し方というのは、国や県が決めて「こういうのがあります。どうぞ使ってください」と言うのが普通ですが、逆に皆さんのほうから「こういう使い方ができる補助金が欲しい。くれ」というのをどんどん発言していったほうがいいと思います。

先ほど彼女の言葉から出てきたのですが、えーひだカンパニーの構成はいろいろな兼業でできている。市役所などにお勤めの方は経営の中核に参画できないという仕組みがあって、それを何とかしてほしいとおっしゃいましたよね。市長、たとえばそういうのはできないですか。

○田中（コメンテーター） ありますよ。可能ですので、ちゃんと申請していただければ。過分な賃料はだめですが、大体平均的にはずっと認可しています。

○畠山（コメンテーター）　　ですね。だから、そういうのを崩していけばいいという感じがしました。全国の皆さん、怒らせてしまったらすみません。素人が勝手に言いました。

○市田（コーディネーター）　　どうもありがとうございます。さきほど、補助金はあえて使いたくないというお話もありました。

○田邊（業績発表者）　　頼らないことが大事ですが、ありがたいです。

○市田（コーディネーター）　　ありがとうございました。会場の方々からご質問、ご意見をいただければと思います。えーひだカンパニーのこと、ご発表に関してでも結構ですし、今話していたようなことに関してでも結構です。いかがでしょうか。お名前とご所属をお願いします。

○会場　岐阜県下呂市から参りました東地区集落環境保全会の代表をしています〇〇〇と申します。明日もご無理を言って視察をさせていただきますので、よろしくお願いします。

まず、会場でお話を聞いていて、久しぶりにこれだけの地元愛を感じた発表を聞きました。本当にありがとうございました。その中で一つ、何か質問しようか選んだのですが、私は自治会の代表をやっている関係で、恐らく最初に市田先生がおっしゃったやり方だと思うのですが、自治会との合意形成、本来で言えば、自治会の代表が上に入って株式会社をつくるとか、そんなやり方もあると思うのですが、恐らくそうではなかったのかなと。まずはやりたいという子たちが集まっていろいろ考えたのですよね。そこで結果を出しながら巻き込んでやっていく、そういう手法を取られたということではなかったのでしょうか。

○野尻（業績発表者）　　そうですね。やはり自治会長とか、そういう役職にこだわると、もちろん地域づくりをやっていきたいという意欲があらわれる方もたくさんおられるのですが、当て職でされている方とかも、地域の役職をやられている方もいらっしゃると思うので、そういう役職にこだわるよりも、例えば普段から地域の活動に積極的に参加されている方とか、こうしていきたい、この地域を残していきたいという、地域づくりに熱い思いを持っておられる方、そういうところを見て、そういう方たちを集めていって最初のプロジェクトのメンバーにしていきました。

○市田（コーディネーター）　　どうもありがとうございます。今日は各地からいらしていただいているようなので、ご質問はありませんか。

○会場　今日は発表をありがとうございました。島根県の東部農林水産振興センターの雲南事務所の〇〇と申します。私は農業関係の仕事をしていまして、今地域のほうでも高齢

化ということがあって、農地とかも管理ができないとか、そういうところは、この資料によると、オール比田農業法人みたいなことが書いてあったのですが、ひょっとしたら、これからどんどんそういう農地が出てきた場合は、えーひだカンパニーのほうで引き受けて管理をされるのかどうかということをお聞きしたいなと思ひまして、お願いします。

○田邊（業績発表者） 当初、地域の皆さん、本当にそんなふうに期待を持ってくださって、カンパニーはいろいろ農地を引き受けて頑張ってくれるのだろうと期待して下さっていたのですが、実はカンパニーだけでは、いろいろな農地を引き受けてお手伝いをするのは本当に困難で、今引き受けているところも比田地区内の各集落の点在したところを引き受けてしまったのですよ。水稻ばかりではなくて、そばとか、小麦とか、耕作放棄地も含めていろいろな農地を管理しているのですが、結局、草刈りも追いつかないですし、水管理もなかなか手が届かなくて、地域の方からはお叱りを受けることが二、三年続いたのですよね。本当になかなか手が回らなかったです。じゃ、今後、どうして地域の農業を担っていくのかというところで、実は最近、比田の農業を考える会というのを立ち上げようではないかというふうに話し合いを始めようと思っているところです。関係機関の方と一緒に知恵を出し合いながら、比田の中では担い手農家さんが四、五人いらっしゃるのですよね。その中が地域、地区をまたいで、いろいろな農地を管理されているので、その方たちとも折り合いを合わせながら、比田の中でどう田んぼを守っていくのかを、将来を見据えた中でみんなで役割分担をしていくことができたかどうかというところで、前向きな話をしませんかと、今ちょうどそのプロジェクトを立ち上げようとしているところです。

○市田（コーディネーター） それは比田地区の中ですか。

○田邊（業績発表者） そうです。

○市田（コーディネーター） 県の東部ということで、もっと広い範囲でというご質問だったかもしれないのですが。

○会場 雲南ですので、奥出雲も担当なので、隣ですから。わかりました。ありがとうございました。

○市田（コーディネーター） どうもありがとうございます。他にいらっしゃいますでしょうか。

○会場 島根大学四回生の〇〇と申します。本日は貴重なお話をありがとうございました。一つ、質問があるのですが、えーひだカンパニーの構成員の内訳を拝見したところ、会社員や農家さん、公務員などさまざまな職種の方が見受けられます。その中で何かプロジェ

クトを行なう際の合意形成のときに、職種の差によって合意形成が難しいとか、何かあれば、どのように合意形成されているのかをお聞きしたいと思います。

○田邊（業績発表者） 部会をしていろいろ協議をした中で物事を進めていくのが一応スタンスなのですが、元々はそうやって部会を開いてやっていたのですが、じゃ、執行部のほうで、何部が何を仕掛けているのかとか、ああいう話があるが、あれはどうなっているのかとって、本当に正直、なかなかコミュニケーションが取れなくて空中分解しそうになったタイミングもありました。私もそのときは交流センターの主事をしながらカンパニーに関わっていたので、余力のところでカンパニーに関わっていて、彼女は最初からずうっとカンパニー一筋で頑張ってくれていたのですが、彼女もいろいろあり過ぎていっぱいいっぱいになってしまったのですよね。そのタイミングもあって、私は前職をやめてカンパニーでというところで、カンパニーの体力もちよっとはできて、私を雇えるという判断ができて、私もこっちに入ったのですが、本当に合意形成の取り方はすごく難しいです。やはりその中で連絡調整をする人間がちゃんといないといけないですし、皆さん、集まらなかったら、LINE上で。でも、LINEが一番のトラブルの素になっているのは事実なのですが、その中で主立った方にはきちっと私がお話をした中で、ちゃんと言葉で伝えて、ニュアンスも含めた中で調整をするというところで、合意形成を取るときに集まる時間とか、集まる場の設定は大事ですし、調整する人間がどれだけ頑張れるかというのもすごく鍵になると思います。

○市田（コーディネーター） かなり核心をついたご質問かと思います。もう一方、二方ぐらいいらっしゃるでしょうか。

○会場 鳥取大学四回生の〇〇です。地域ビジョンの策定で、アイデアが1,460件から88に絞ったとお伺いしたのですが、メンバーで厳選した基準はどんな感じだったか教えてください。

○野尻（業績発表者） まず、私が地域ビジョンの整理を中心となってやっていたのですが、そのアイデアの中で、ただ他人任せというか、ほか任せの希望みたいなものもあったのです。たとえば遊園地ができたらいいなとか、それは自分たちが主でやるのとまた違う、ほかの大きな会社ができたらいいなとか、そういったものを外して、自分たちがやはり活動して実現できるようなアイデアに絞ったりしました。あとは、ある程度絞られた中で、プロジェクトのメンバーに見てもらって、このアイデアは早く行なうべきだとか、このアイデアをやることで地域にどれだけ活気が出るのかとか、そういった何点かの部分で点数を

つけてもらって、点数が高いところからアイデアを取っていった。88にしたのは、最初100にしようとか、77にしようとか、いろいろ迷ったのですが、末広がりです。88にしたのです。その点数をつけて絞っていった。あとは、補足で、地域向けに広報誌をつくっていたので、地域の方からさらにアイデアを受け付けして、それをさらに加えて協議して、そこから88に絞っていったという形で決定しました。

○市田（コーディネーター） 末広りの88だったんですね。私もこの点は聞きたかったところなので、ありがとうございます。それでは、あと一方、ご質問がありましたら。

○会場 島根大学修士1年の〇〇です。本日は貴重なお時間をありがとうございます。よくお話の中で、結構失敗ばかりしてきましたみたいなことをおっしゃっていて、可能であれば、具体的な失敗したことと、あと、それによって得られたものとか、今後に活かしたものがあったら、教えてください。

○野尻（業績発表者） 失敗したというか、心が折れそうになったことは、私、地域おこし協力隊で中心的というか、私が特に動ける人材だったので、地域ビジョンを作るときにも、希望がある自治会には、たとえば夜の会に参加させてもらって、地域ビジョンをつくること、地域プロジェクトでやっていきたいのはこういうことすみたいなお話をさせてもらったときに、「いいことだね」と言ってくれる方のほうがたくさんおられたのですが、やはり「そんなことをやっても意味がない」とか、「そんな簡単に考えるな」とか、そういうことを言って怒られたりもしましたし、一番嫌だったのは、私が話をしても、本当に心ここにあらずで、自分の地域のことなのですが、全然聞いてくださっていないというか、無関心の方がおられた。自治会を回って、私もすごくいい取組だと思ってやったことなので、そうやって怒られたり、無関心の方がおられたりしたことは、今度呼ばれたが、行くのが嫌だなとか思って、心が折れそうになったりしたのです。最初に評価してくださった点にあったと思うのですが、そうやって反対されている方とか、無関心の方たちも振り向かせることに労力を使うと、ビジョンをつくるのは1年ぐらいでできたのですが、多分、その時間ももっともっと長くしたほうがいいという声もあるかと思うのですが、いろいろ時間もかかっていたかと思うのです。が、そこに労力を使うより、今賛成して、一緒に頑張ろうよと言ってくださっている方と一緒に、ちょっとずつでも進めていくほうがいいなと思えるようになってきたというのは、私の心のモチベーションとしても、そういう気持ちになれたのは、前向きに向かえる、地域ビジョンを作ったりとか、地域づくりに向かえる、今のうちの会社のやり方も多分そうだと思うのですが、一緒に前を向いてや

ってくださっている方とちょっとずつ進めていく、そういったことにつながっているかなと思うので、そういう気持ちの切り替えを学べたかなというのは思います。

○田邊（業績発表者） 300万円の赤字です。

○市田（コーディネーター） かなり本質に迫ることまでお話しいただきましてありがとうございました。また、ご質問いただき、ありがとうございました。そろそろ時間ですのでまとめに入りたいと思います。

えーひだカンパニーはやはり既存の自治会など、旧来の組織にかかわらず、やる気のある方を集めることに成功しました。性別、年齢、元々住民だったかどうかにかかわらず、協力してずっと続けてこられたということが一番大きいのではないかと思います。あえて申し上げますと、かつて消滅可能性都市というのがありました。2014年の時点で安来市は消滅可能性都市でした。最新の2024年の推計によると、それを脱したことが発表されました。安来市を初め、島根県全体で消滅可能性都市が減っているということです。これを見て私が思ったのは、やはり島根県は県、市町村それぞれが、よそから来る、関心を持って入ってくる方、移住とか、定住とか、学校の生徒を受け入れたりとか、そういったことが定着していて、今日の話にもあったような、Uターンとか、Iターンとか、協力隊とか、そういう人たちを受け入れて、その人たちを活かしていくといえますか、また住みやすい雰囲気をつくっていくというところが、全体としてかつての消滅可能性都市が大分減ってきたという結果にあらわれているのではないかと個人的には思っております。日本全体の人口減少というのはまだ続くのでけれども、少なくとも今のような東京一極集中が続くというのではなく、そこに何とか歯止めがかかり、どこに住んでも、地方でも、農村でも、都市でも、心豊かに暮らせるヒントがこのえーひだカンパニーの活動にあるのではないかと改めて思いました。とてもいろいろなことに通じるお話だったかなと改めて感謝を申し上げます。どうもありがとうございました。また、パネリストの方々もどうもありがとうございました。（拍手）

では、これにてパネルディスカッションを終了したいと思います。

○司会 演壇の皆様、有意義な意見交換、ありがとうございました。また、熱心にご参加いただきました会場の皆様、あるいはオンラインで参加の方々も誠にありがとうございました。以上をもちまして、優秀農林水産業者に係るシンポジウムを終了いたします。

本日の結果は、後ほど、内容を整理した上で、ほぼ全文を当協会のホームページにアップいたしますので、今後の参考にいただければ幸いです。

また、来週2月27日には農産・蚕糸部門のシンポジウムを滋賀県大津市で開催する予定であります。こちらもオンラインで視聴が可能ですので、ご関心のある方はよろしく願いいたします。

なお、お帰りの際には、簡単なアンケート用紙をお配りしておりますので、ご記入の上、受付にお渡しいただくようお願いをいたします。オンライン参加の方々には、Zoom会議から退室されますと、アンケートに回答する画面に切り替わりますので、ご回答をよろしく願いいたします。

本日は誠にありがとうございました。

令和6年度（第63回）農林水産祭
（第38回）「優秀農林水産業者に係るシンポジウム」
（88のアイデア実現を目指して、「え〜ひだ」を創るカンパニー）

発行 令和7年4月

編集・発行 公益財団法人 日本農林漁業振興会

〒104-0045

東京都中央区築地3-12-5 築地小山ビル4階

TEL (03) - 6441-0791 (代)

FAX (03) - 6441-0792

URL <http://www.affskk.jp>

本資料に掲載の記事、写真の無断転載を禁じます。

